

**USER'S
MANUAL**

4ポートギガビットブロードバンドルータ

BRL-04G

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

使用前に必ずお読みください

本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

ご注意

- ・ 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第3者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粹経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- ・ 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- ・ 本製品は、一般家庭や小規模事業所におけるブロードバンド環境下での利用を前提にしています。物理的・論理的に規模の大きなネットワークや、一般的ではない環境または目的で本製品を使用した場合、正常に動作しない可能性があります。
- ・ 本製品パッケージ等に記載されている性能値(スループット)は、当社試験環境下での参考測定値であり、お客様環境下での性能を保証するものではありません。また、バージョンアップ等により予告無く性能が上下することがあります。
- ・ ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品内部のソフトウェア(ファームウェア)更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関する保証は一切ありません。
- ・ 一般的に、インターネットなどの公衆網の利用に際しては、通信事業者との契約が必要になります。
- ・ 通信事業者によっては公衆網に接続可能な端末台数を制限、あるいは台数に応じた料金を設定している場合があります。通信事業者との契約内容をご確認ください。
- ・ 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- ・ 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

著作権等

- ・ 本書に関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社へ独占的に帰属します。プラネックスコミュニケーションズ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態及び手段を問わず、本書の記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- ・ 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
- ・ 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- ・ 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

本製品を安全にお使いいただくために



本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

■ 設置及び保管に関して

- ・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないでください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・温度変化の激しい場所で本製品をご利用にならないでください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 取り扱いに関して

- ・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。
- ・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
- ・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。
- ・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

- ・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。
- ・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取り得てください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

目次

本製品を安全にお使いいただくために	2
第1章 はじめに	6
1-1.概要	6
1-2.特長	8
1-3.梱包内容の確認	12
1-4.各部の名称	13
1-5.対応機器	16
1-6.設定の初期化	17
第2章 ハードウェアの接続	19
2-1.設置場所について	19
2-2.設置	20
2-3.WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する	21
2-4.LAN側ポートへのコンピュータの接続	23
2-5.電源の接続	24
2-6.接続の確認	25
第3章 コンピュータの設定	26
第4章 インターネット接続設定	44
4-1.インターネット接続方法の確認	44
4-2.DHCP接続の設定	46
4-3.PPPoE接続の設定	51
4-4.マルチセッション接続の設定	59
4-5.固定IP接続の設定	66
第5章 具体的な運用例	72
5-1.サーバを公開したい	72
5-2.ネットワークゲームをプレイしたい	75
5-3.コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい (DMZ)	78
5-4.インターネットへの通信を制限したい	81
第6章 詳細設定	85
6-1.設定画面を開く	85
6-2.LAN側ネットワーク設定	88

6-3.管理設定	93
6-4.DMZ設定	96
6-5.パケットフィルタ設定	100
6-6.スタティックルーティング設定	105
6-7.ダイナミックDNS設定	106
6-8.URLフィルタ設定	109
6-9.接続ステータス	111
6-10.セッションリスト	113
6-11.ユーザリスト	115
6-12.初期化	117
6-13.設定の保存	118
6-14.アップデート	119
付録A ネットワークQ&A	121
1.ブロードバンドルータの色々な「？」について	121
2.設定画面にアクセスできない	125
3.インターネットにアクセスできない	132
4.その他よくあるお問い合わせについて	139
付録B 仕様	143
ユーザー登録について	144
弊社へのお問い合わせ	145
質問表	146

第1章 はじめに

1-1 概要

本製品は、FTTH、ADSLおよびCATV(ケーブルTV)接続を使ったインターネット接続に対応したブロードバンドルータです。NAT/IPマスカレード(NAPT)機能によって、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスできます。また、NAPT変換が行われることでインターネットからの直接参照を原則禁止でき、セキュリティの高いネット利用がおこなえます。

本製品はWEBブラウザによって、インターネット接続設定などが簡単にセットアップできます。

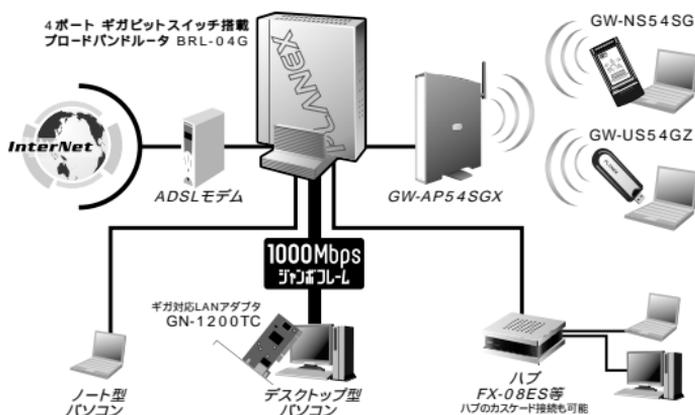


図1-1 接続図

注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合もあります。プロバイダとの契約内容についてご確認ください。

1-2 特長

MIPS16bitチップ採用により低コストで高速スループットを実現

WAN側に100BASE-TX/10BASE-T自動認識、Auto MDI/MDI-X
に対応したWANポートx1装備

LAN側に1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T自動認識、Auto
MDI/MDI-Xに対応した4ポートギガビットスイッチングハブを
内蔵しているため、ケーブルの結線方向(ストレート・クロス)
がどちらでもご利用できます。

NAPT機能で1つのIPアドレスを複数コンピュータで同時ブ
ロードバンド利用が可能

FTTH、ADSL、CATV接続などの各種インターネット回線に対応

DHCPクライアント機能

IPアドレスの自動割り当て(DHCP)に対応しているプロバイダ
に対応しています。(各種CATVやYahoo!BBなど)

ブロードバンド接続に必要なIP設定が自動的に行われますので
設定も最小限で済みます。

PPPoEクライアント機能

PPPoEプロトコルを採用しているプロバイダにも対応しています。(フレッツ・ADSLやBフレッツなど)

これまで接続ツールを使って個別にネット接続していた処理を本製品がまとめて担当するので接続しているコンピュータは接続管理を気にすることなく複数台同時にネット利用ができます。

PPPoEマルチセッション機能

異なる2つのPPPoE接続相手先への同時接続が可能なPPPoEマルチセッションに対応しています。

WAN側MACアドレス変換機能

あらかじめインターネット接続するコンピュータのMACアドレスを登録するタイプの契約をされている場合に登録アドレスを本製品にセットすることで契約内容の変更をせずにすぐネット利用ができます。

DHCPサーバ機能(DNS Proxy含む)

本製品に接続するコンピュータに対するIP設定(IPアドレス割り当てなど)を自動化し、面倒な作業をすることなくネットワークとの通信を行えるようになります。

サーバ公開、ネットワークゲーム対応(ローカルサーバ・パッチャルコンピュータ)

インターネットサーバの公開やNAT経由では使えない多くのアプリケーション/サービス(ゲームなど)を利用することができます。

簡易ファイアウォール機能

NAPT機能によってインターネットからの攻撃を防御し、クライアントに安全なネットワークを提供します。

フィルタ機能

LAN側クライアントの不要なインターネットアクセスを制限できます。

Windows(MSN)Messenger対応(UPnP機能)

Universal Plug and Play Internet Gateway Device v1.0に準拠し、Windows MessengerなどのUPnP対応アプリケーションを簡単に利用することができます。

ダイナミックDNSサービス対応

本製品はダイナミックDNSサービス(DynDNS.org)に対応し、IPアドレス更新を自動的におこなえます。

通信状態の把握

本製品の状態は、WWWブラウザ設定画面で把握することができます。

機能追加 / 修正(ファームウェア更新)

弊社ホームページにて公開されるファイルに更新することで、本製品の機能を決定付ける内部ソフトウェア(ファームウェア)を更新することができます。

初心者にもわかりやすい簡単設定

(WWWブラウザ設定)

本製品の設定はすべてWWWブラウザを使ったホームページ形式の設定画面上で行えます。

1-3 梱包内容の確認

パッケージから注意して内容物を取り出し、以下の付属品が含まれていることを確認してください。

BRL-04G本体

AC電源アダプタ

UTPストレートLANケーブル(1m)1本

ユーザーズマニュアルCD-ROM

らくらく！かんたん設定ガイド

縦置きスタンド

保証書

安全に関する説明書

付属品が足りない場合、または破損などがある場合は、お手数ですが販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡下さい。

1-4.各部の名称

本体前面

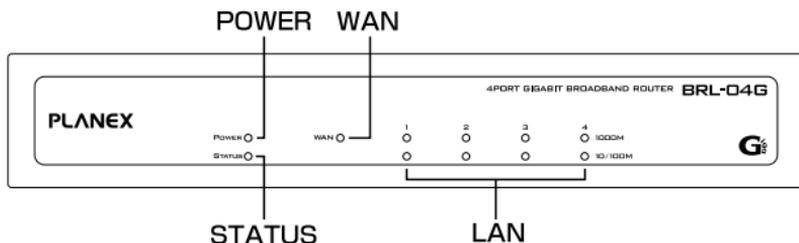


図1-2 BRL-04G本体前面

LED

「POWER (緑)

本製品に電源が供給されているときに点灯します。

「STATUS (赤)

点滅・・・本製品起動時、設定の初期化中に点滅します。

「WAN (緑)

点灯・・・WANポートがリンクしている状態です。

点滅・・・WANポートが通信している状態です。

「LAN (緑) 1000M

点灯・・・LANポートが1000Mでリンクしている状態です。

点滅・・・LANポートが1000Mで通信している状態です。

本体背面

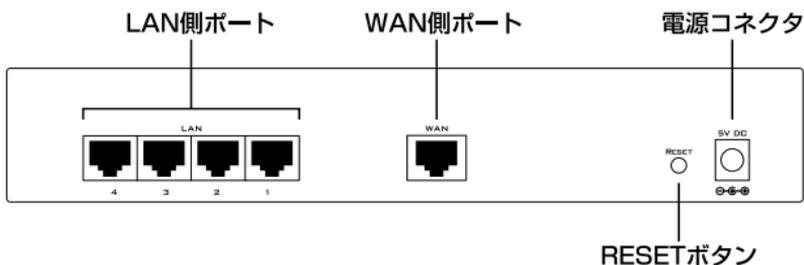


図1-3 BRL-04G本体背面

「RESETボタン」

本製品を再起動するときや、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。

「LAN側ポート」

本製品にコンピュータを直接接続するためのRJ-45 STPポートです。

「WAN側ポート」

本製品をADSL、FTTH、ケーブルモデムと接続するためのRJ-45 STPポートです。

「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。

本体裏面

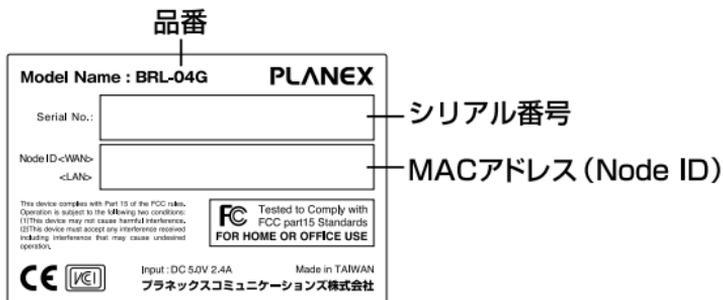


図1-4 BRL-04G本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要となります。

「MACアドレス (Node ID)」

本製品のWAN/LANポートのMACアドレス(物理アドレス)です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要なことがあります。そのときはこのWAN側MACアドレスをプロバイダに申請してください。

1-5 対応機器

コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

Windows XP/2000/Me/98SE/98を搭載し、LAN(RJ-45)ポートを装備したコンピュータ

TCP/IPが利用できるOS(Mac OS、各種UNIXなど)を搭載し、LAN(RJ-45)ポートを装備したコンピュータ

ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

LANケーブル(本製品に接続するコンピュータの台数分)

ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のADSL/ケーブルモデムに対応しています。

RJ-45(LAN)ポートを装備したADSLモデム

RJ-45(LAN)ポートを装備したケーブルモデム

1-6.設定の初期化

簡単な使用方法

IPアドレスやパスワードを忘れてしまったときや、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときなどに設定の初期化が必要になることがあります。

本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。

1. 本製品に電源を投入します。STATUS LEDの点滅が終了し正常に起動したことを確認します。
2. 本製品背面にある「RESET」ボタンをとがったペンなどで押します。
3. 「RESET」ボタンを4秒間押し続けるとSTATUS LEDが点滅しますので「RESET」ボタンを離します。
4. 設定情報が工場出荷時の状態に戻り、起動します。
5. STATUS LEDの点滅が終了し、消灯したら作業は終了です。

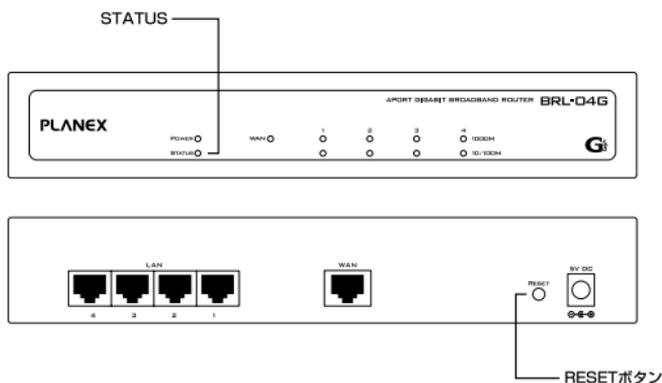


図1-5 RESETボタンとSTATUS LED

注意

設定の初期化を行うと、LAN側/WAN側ポートの設定や、フィルタ設定等すべての設定が初期化されます。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。

また予期せぬエラーを避けるために本製品に接続しているケーブルをあらかじめポートから外しておくことを推奨します。

第2章 ハードウェアの接続

本章では、本製品とADSL/ケーブルモデム等、コンピュータとの接続手順について説明します。

2-1.設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りくださいますようお願いいたします。

湿気の多い場所に設置しない。

チリやほこりの多い場所には設置しない。

直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しない。

内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空ける。

注意

通風口にほこりなどがたまと内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機などでほこりを取り除くようにしてください。

2-2.設置

本製品は、机の上などの平らな場所に設置して使ってください。

図のように本体の平らな面が下になるように設置して下さい。
また、本製品は縦置きにも対応しています。縦置きにするときは
本体側面の縦置き用のスタンドを取り付けてから、平らな場所に
縦置きしてください。

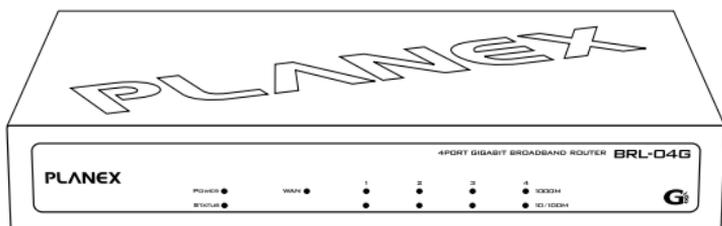


図2-1 本体横置き

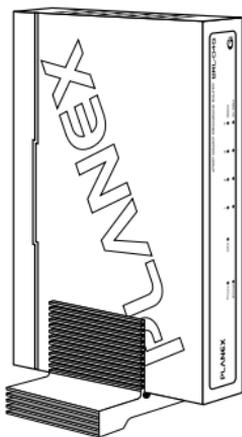


図2-2 本体縦置き

2-3.ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムとの接続

接続前の準備

ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムの電源は切ってください。

電源スイッチがないタイプはコンセントから電源アダプタを抜いてください。

本製品付属のLANケーブルをご用意ください。

ADSLモデムとの接続

本製品のWANポートと、ADSLモデムのLANポートを、LANケーブルでつなぎます。

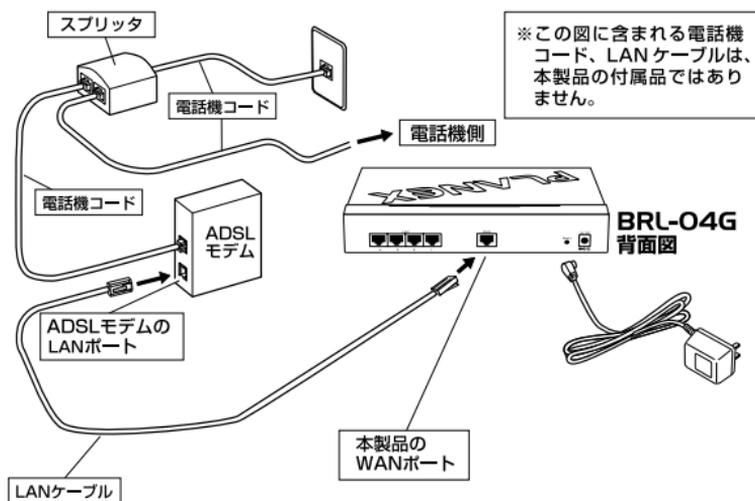
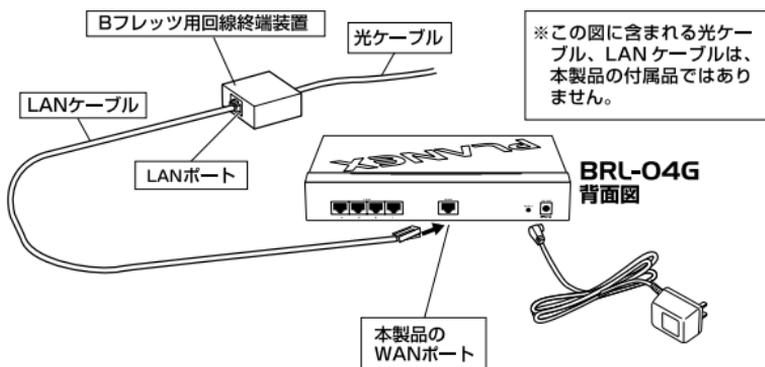


図2-3-1 ADSLモデムとの接続

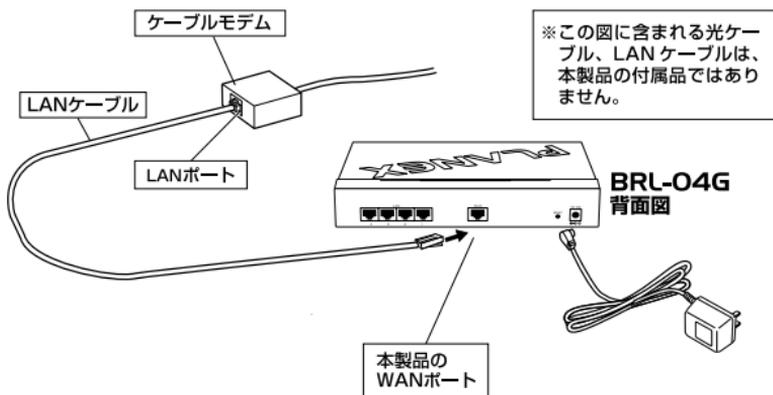
Bフレッツ用回線終端装置との接続

本製品のWANポートと、“Bフレッツ”用回線終端装置のLANポートを、LANケーブルでつなぎます。



ケーブルモデムとの接続

本製品のWANポートと、“Bフレッツ”用回線終端装置のLANポートを、LANケーブルでつなぎます。



2-4 LAN側ポートへのコンピュータの接続

1. LANケーブルの一端を本製品のLAN側ポートに接続します。本製品のLAN側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI Xに対応しています。コンピュータを接続するLANケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。
2. LANケーブルのもう一端をコンピュータのLANポートに接続します。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかりささっているか確認してください。

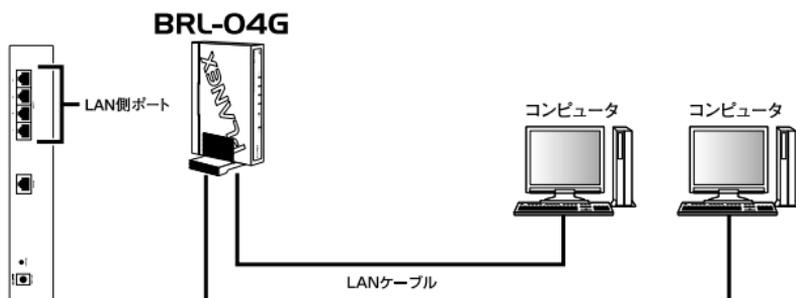


図2-4 コンピュータとの接続

2-5 電源の接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。
2. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。
3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。
4. コンピュータの電源を入れてください。
5. 次項の接続の確認に進んでください。

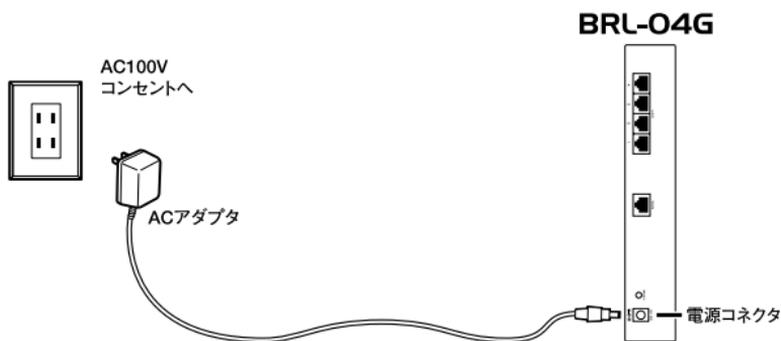


図2-5 電源の接続

注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作などの原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

2-6 接続の確認

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPOWER、WAN、LANの各LEDが点灯します。これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてお確かめください。

POWER LED

- ・ 本製品付属のACアダプタを使っていますか？
- ・ ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

WAN LED

- ・ LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのLANポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- ・ 使用しているLANケーブルのタイプは間違っていないか？

LAN LED

- ・ LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびコンピュータのLANポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ コンピュータの電源は入っていますか？

第3章 コンピュータの設定

この章では本製品を使ったインターネットへのアクセスとWEBブラウザから設定するために必要なコンピュータの設定手順について説明します。コンピュータの設定を開始する前に、「第2章.ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を完了させておいてください。

3-1 コンピュータの設定

ご利用のOSに応じて次のページをご覧ください。

Windows XP ProfessionalおよびHome Editionの場合

ネットワーク設定(Windows XP)へ

Windows 2000の場合

ネットワーク設定(Windows 2000)へ

Windows 98(Second Edition含む)/Meの場合

ネットワーク設定(Windows 98/Me)へ

Macintosh(Mac OS9)の場合

ネットワーク設定(Mac OS9)へ

Macintosh(Mac OS X)の場合

ネットワーク設定(Mac OS X)へ

メモ

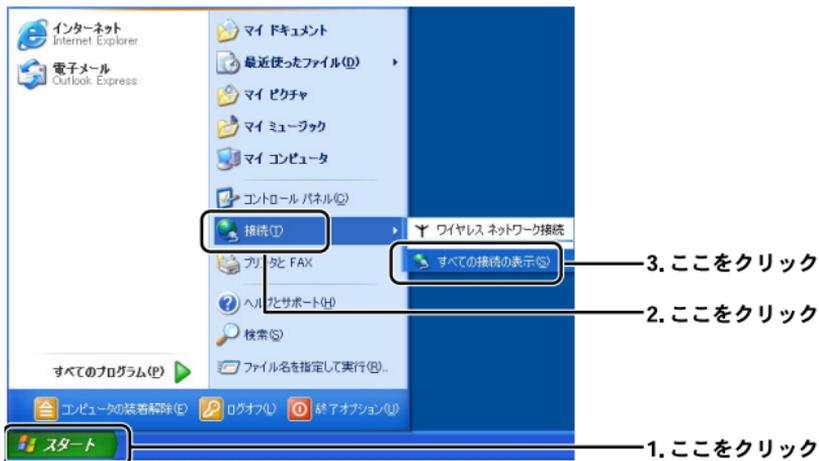
作業を始める前にコンピュータにLANアダプタが装着され、正常に認識されていることを確かめてください。LANアダプタが装着されていないときは、LANアダプタの追加導入を行ってください。

弊社ではPCIバス接続型のLANアダプタ「FW-110TX-PK」をはじめ、ノートパソコンなどに便利なPCカードタイプの「FNW-3700-TX」などいろいろな形態のLANアダプタを取り扱っています。

詳しくは、弊社WEBサイト(<http://www.planex.co.jp/>)をご参照ください。

ネットワーク設定(Windows XP)

1. 「スタート」ボタンから「接続」内の「すべての接続の表示」を選択します。



注意

Windowsクラシックスタイルの場合は「スタート」から「設定」内の「ネットワーク接続」を選択します。

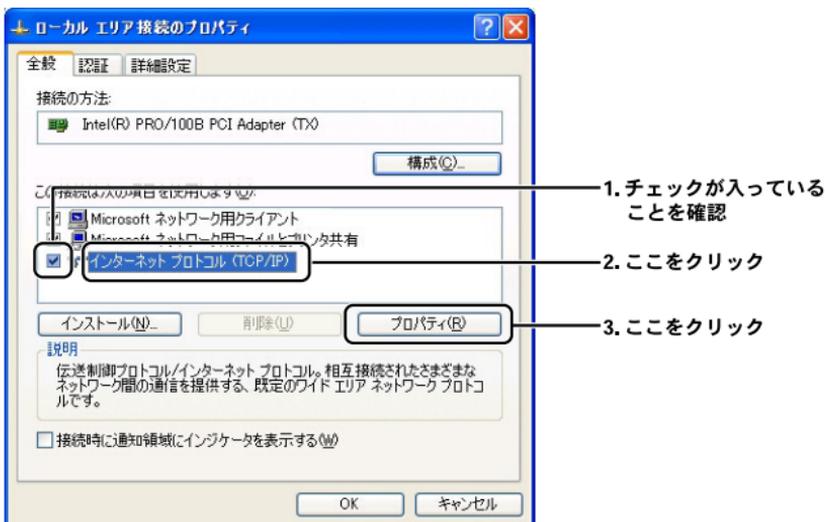
2. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウを開きます。



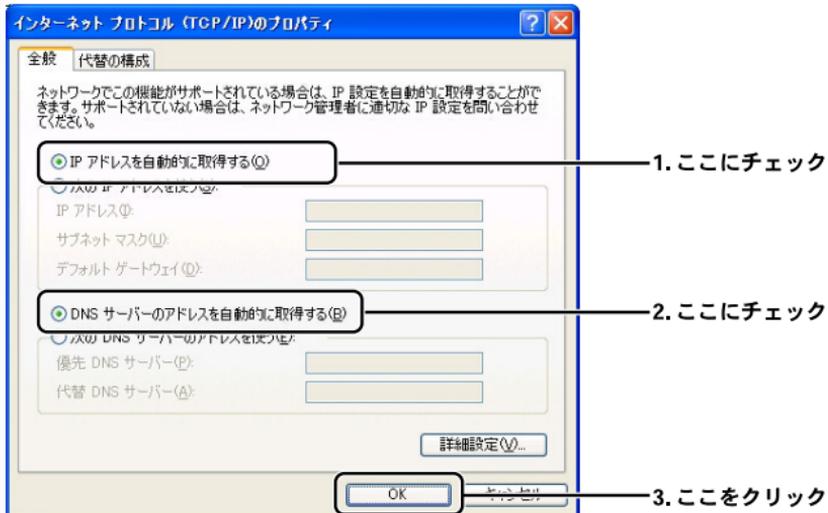
注意

「ローカルエリア接続」アイコンが複数ある場合は本製品と接続している機器のアイコンを選択してください。

3. 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択して設定画面を開きます。



4. 「全般」にある各項目を以下のように設定確認します。



5. 設定を終了します。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウの [OK] をクリックします。

ネットワークの設定は終了です。

IPアドレスの確認方法 (Windows XP)

1. 「スタート」から「接続」内の「すべての接続の表示」を選択します。



注意

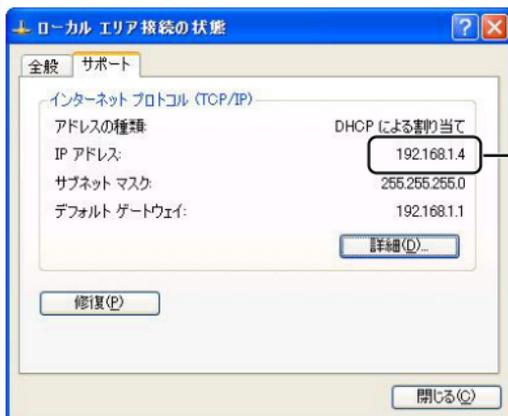
Windowsクラシックスタイルの場合は「スタート」から「設定」内の「ネットワーク接続」を選択します。

2. 「ローカルエリア接続の状態」が開きます。



3. 「ローカルエリア接続の状態」の「サポート」タブを選択します。

IPアドレスなどアドレス情報を確認します。



「192.168.1.xxx」になっていることを確認します

*工場出荷時設定の場合

接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認します。

4. [閉じる] をクリックしてIPアドレスの確認を終了します。

メモ

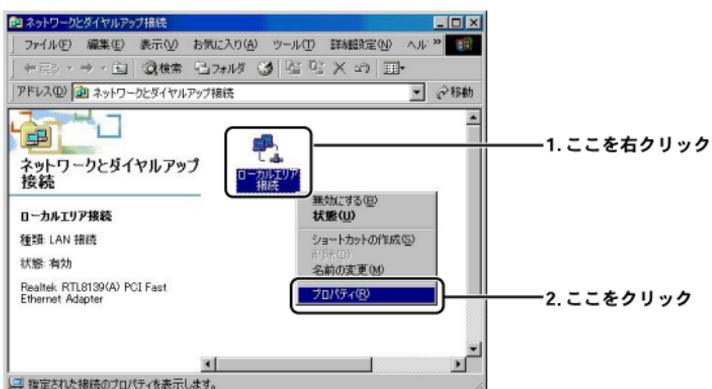
IPアドレスが0.0.0.0や169.254.***.*** のような表示のときはコンピュータを再起動してください。

ネットワーク設定(Windows 2000)

1. 「スタート」から「設定」内の「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選びます。



2. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選びます。



注意

「ローカルエリア接続」アイコンが複数ある場合は本製品と接続している機器のアイコンを選択してください。

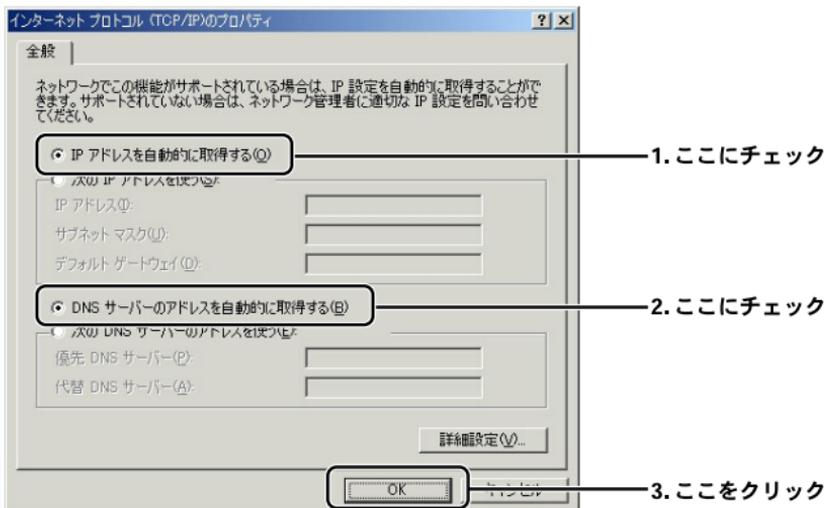
3. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確認して「プロパティ」を開きます。



注意

「インターネットプロトコル (TCP/IP)」がない場合は、<F1>キーを押してWindows標準ヘルプのキーワードから「TCP/IPをインストールする」を検索して参照してください。

4. 「全般」内の各項目の設定を確認します。



5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るのを閉じてください。ネットワークの設定を終了します。

IPアドレスの確認方法(Windows 2000)

1. 「スタート」から「プログラム」内の「アクセサリ」より「コマンドプロンプト」を選びます。



- 2.「コマンドプロンプト」画面内で「ipconfig (半角英数字)」と入力して<Enter>を押します。表示されたアドレス情報を確認します。

```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

D:\>ipconfig

Windows 2000 IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix . : support.planex
    IP Address. . . . . : 192.168.1.5
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.1

D:\>
```

「ipconfig」と半角英数字で入力して<Enter>キーを押します

接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認

例：「192.168.1.xxx (「x x x」は1以外の数字になります。)

*工場出荷時設定の場合

メモ

IPアドレスが0.0.0.0や169.254.***.***という様な表示になっている場合には、「コマンドプロンプト」画面内で「ipconfig /release」(半角英数字)と入力して<Enter>を押します。

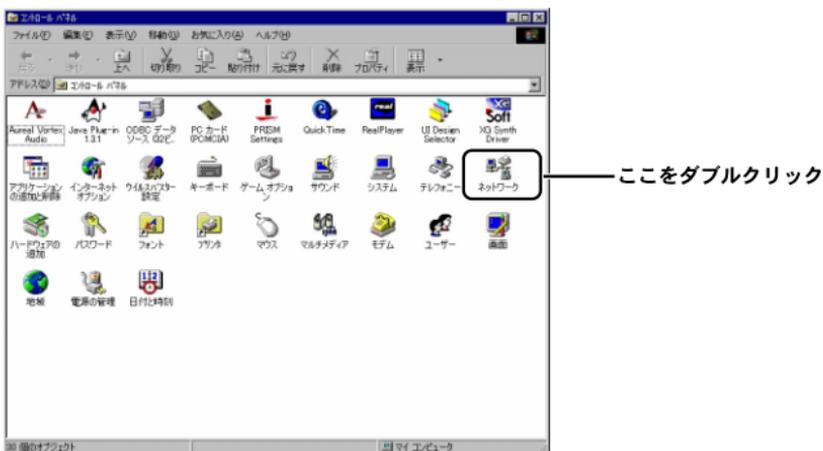
その後、「ipconfig /renew」(半角英数字)と入力して2.のような表示がされるかどうか確かめてください。

ネットワーク設定 (Windows 98/Me)

1. 「スタート」から「設定」内の「コントロールパネル」を選びます。



2. 「コントロールパネル」一覧から「ネットワーク」を開きます。



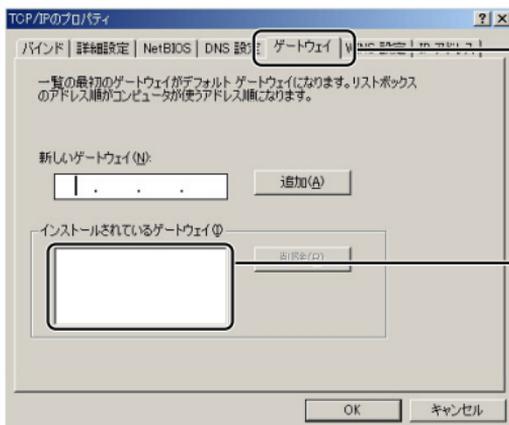
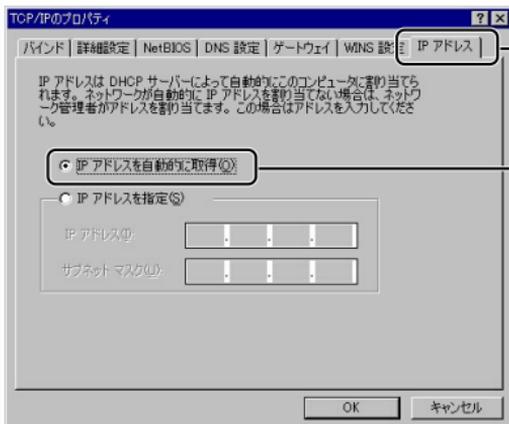
3.「現在のネットワーク構成」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確かめてください。

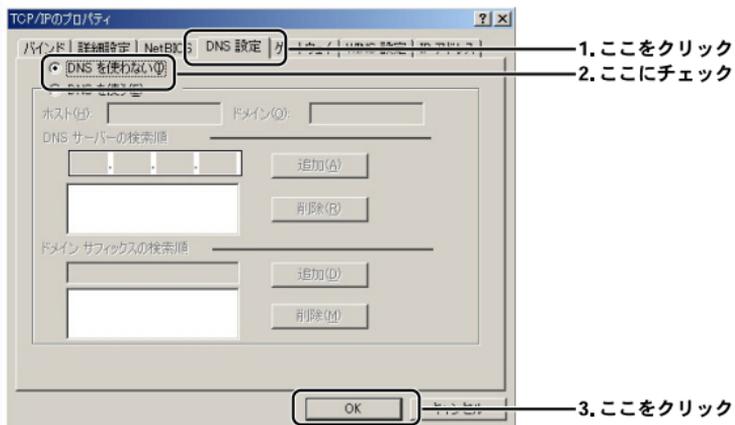


注意

「TCP/IP」がない場合は<F1>キーを押してWindowsヘルプのキーワードから「ネットワークプロトコルをインストールする」を検索して参照してください。

4. 「TCP/IPのプロパティ」内の各項目の確認をおこないます。





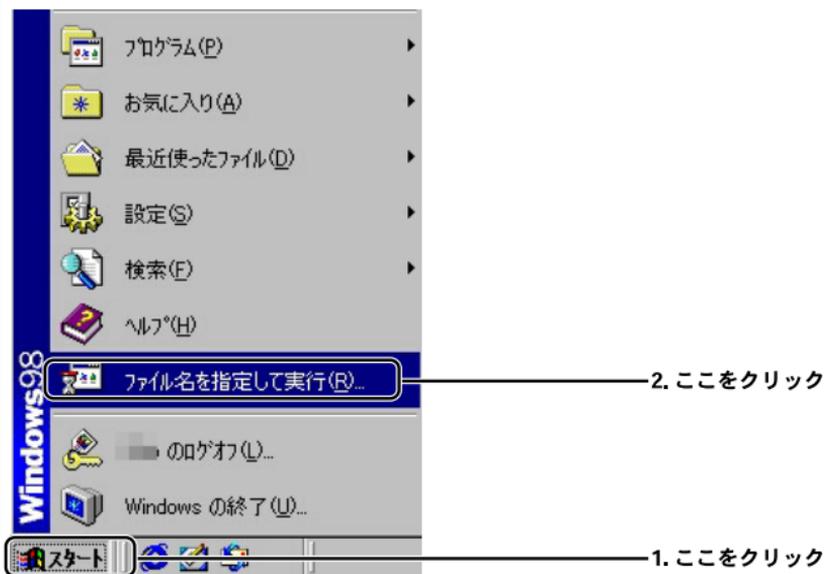
5. 設定を完了させてコンピュータを再起動します。

注意

自動的に再起動しないときは手動で再起動します。

ネットワーク設定 (Windows 98/Me)

1. 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選びます。



2. 「名前」欄に「winipcfg」(半角英数字)と入力します。



3. 「IP設定」内でIPアドレスを確認します。



接続先になる本製品の「LAN設定」にあわせた表示になっていることを確認

例：「192.168.1.xxx」（「x x x」は1以外の数字になります。）

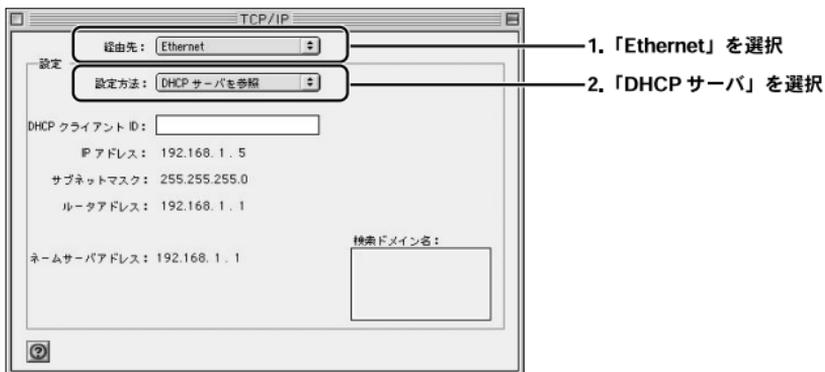
* 工場出荷時設定の場合

メモ

IPアドレスが0.0.0.0や169.254.***.***という様な表示になっている場合には、「IP設定」画面内で[すべて解放]ボタンを押してから[OK]を押します。その状態から[すべて書き換え]をクリックして、3.にあるような表示になるか確認してください。

ネットワーク設定 (Mac OS9)

1. アップルメニューから「コントロールパネル」 「TCP/IP」を順に選択します。
2. TCP/IPの設定ウィンドウが表示されますので、プルダウンメニューから以下を選択します。



4. 「TCP/IP」の設定ウィンドウを閉じて、Macintoshを再起動します。

5. 起動が完了したら再度「TCP/IP」の設定ウィンドウを表示してIPアドレス「192.168.1.XXX」になっていることを確認します。
(XXXは1以外の数字になります)
ウィンドウを閉じてネットワークの設定を終了します。

ネットワーク設定 (Mac OS X)

1. Dockにある [システム環境設定] を開きます。

2. 「システム環境設定」の「ネットワーク」アイコンをクリックしてネットワーク設定項目を開きます。



ダブルクリック



ダブルクリック

3. 「ネットワーク設定」項目を以下の通り設定します。

場所：自動

表示：内蔵 Ethernet

TCP/IP | PPPoE | AppleTalk | プロキシ

設定：DHCP サーバを参照

DNS サーバ (オプション)
192.168.1.1

IP アドレス：192.168.1.3
(DHCP サーバから割り当てられます)

サブネットマスク：255.255.255.0

ルータ：192.168.1.1

検索ドメイン (オプション)

DHCP クライアント ID：
(オプション)

Ethernet アドレス：00:10:00:00:00:00 例：apple.co.jp
earthlink.net

変更できないようにするにはカギをクリックします。

元に戻す 今すぐ適用

1. 「内蔵 Ethernet」を選択

2. 「DHCP サーバ」を選択

3. ここをクリック

4. 再度、「TCP/IP」の設定ウィンドウを表示してIPアドレス「192.168.1.XXX」になっていることを確認します。(XXXは1以外の数字です)
ウィンドウを閉じてネットワークの設定を終了します。

注意

本製品をご使用になる以前に、Macから直接PPPoE接続を行っていた場合、MacのPPPoE設定を無効にする必要があります。「システム環境設定」「内蔵Ethernet」「PPPoE」項目を表示して「PPPoEを使って接続する」に入っているチェックを外してください。

第4章 インターネット接続設定

本章では本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、必要最小限の設定だけで、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようになります。インターネット接続設定を開始する前に、「第2章.ハードウェアの接続」および「第3章.コンピュータの設定」を済ませておいてください。本製品をより詳細に設定したいときは、「第6章.詳細設定」を参照してください。

4-1 インターネット接続方法の確認

本製品のインターネット接続の設定は、お客様が契約しているプロバイダとのサービス内容によって異なります。次の中からお客様のプロバイダとの契約内容にあった接続方法を選び、本製品の設定を行ってください。また、契約プロバイダより案内されている接続設定情報をあらかじめ確認しておいてください。

DHCP接続

多くのケーブルテレビインターネット接続サービスや、ヤフー株式会社の「Yahoo!BB」などのサービスで採用されている、DHCPプロトコルを使ってIPアドレスが自動的に割り当てられる方法です。

次項の「4-2 DHCP接続の設定」に進んでください。

PPPoE接続

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」、東京電力株式会社「TEPCOひかり」サービスなどで採用されているPPPoEプロトコルを使う接続方法です。接続にはユーザ名（アカウント名）とパスワードが必要です。

次項の「4-3 PPPoE接続の設定」に進んでください。

固定IPアドレス接続

プロバイダから固定のIPアドレスが割り当てられるサービスでの接続方法です。

次項の「4-5 固定IP接続の設定」に進んでください。

注意

本製品を@NetHomeでご使用になるときは、@NetHomeへのルータ使用の登録が必要です。（2004年6月現在）

それぞれの接続方式は排他選択であり、2つの接続方式を同時利用することはできません。ご利用のブロードバンドサービスに適した接続方式を選んでください。

4-2.DHCP接続の設定

注意

WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。

・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。

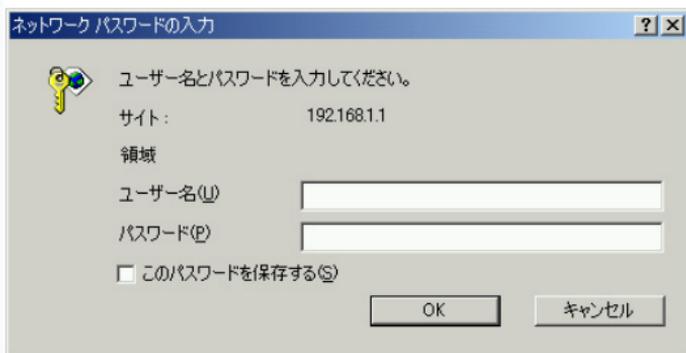
Internet Explorerでは「表示(ツール)」、「インターネットオプション」、「接続」、「LANの設定」、Netscapeでは「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Internet Explorerでは「アドレス」、Netscapeでは「場所」) に本製品のLAN側のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、<Enter>を押しま



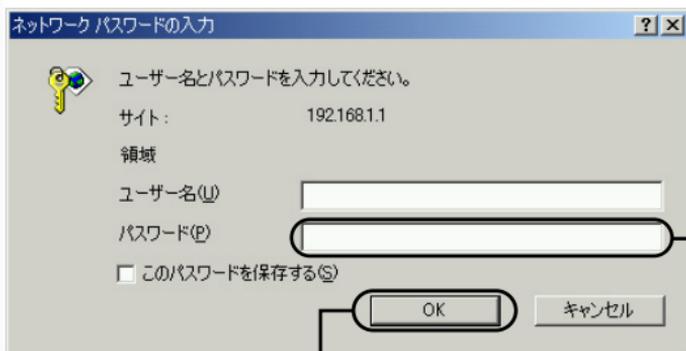
192.168.1.1と入力します

す。



3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。

4. 本製品に設定したパスワードを入力してください。(工場出荷時の設定ではユーザ名は空欄、パスワードは「password」に設定されています。) OK をクリックします。



1. 設定したパスワードを入力します。
(工場出荷時の設定のときは「password」と入力します)

2. クリックします

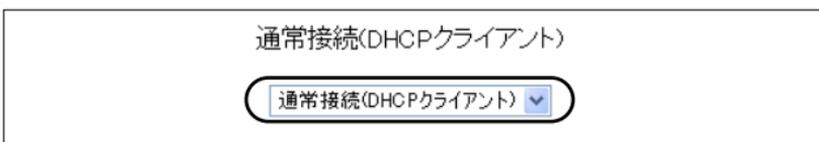
5. 本製品の設定画面が表示されます。

メニューから「WAN側設定」をクリックします。



クリックします

6. 「WAN側設定」が表示されます。プルダウンメニューから「通常接続 (DHCPクライアント)」を選択します。



7. 「通常接続 (DHCPクライアント)」設定ページが表示されます。

MACアドレスの入力が必要なときやプロバイダからホスト名、ドメイン名、DNSサーバアドレスが指定されている場合は入力します。

特に指定されていないときは何も入力しません。

「MACアドレス」

プロバイダにMACアドレスの登録が必要です。

すでに登録しているときは登録したMACアドレスを入力します。

「DNSサーバアドレス」

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されているときに入力します。

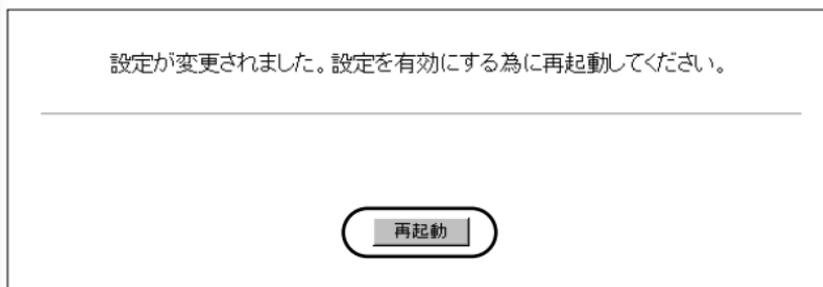
本製品は2つまでDNSアドレスを登録できますが、セカンダリDNSサーバアドレスは予備用のアドレスですので、必ずしも入力する必要はありません。

設定範囲：半角数字 1.0.0.1 ~ 223.255.255.254

「ドメイン名」

プロバイダによっては、利用者管理などの目的により「ドメイン名」設定の指定が必要な場合があります。

8. 全ての設定が完了したら[設定]をクリックします。



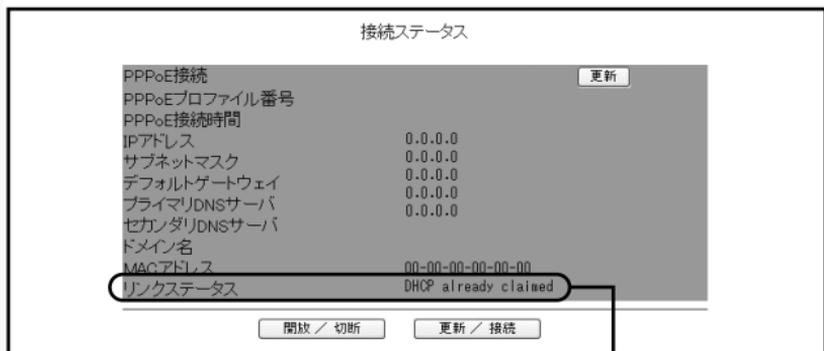
9. 設定が保存されます。[再起動]をクリックします。

10.メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」をクリックします。



クリックします

11.「接続ステータス」が表示されます、「リンクステータス」が「DHCP already claimed」と表示されていてIPアドレスが取得できていれば設定は完了です。



確認します

注意

「リンクステータス」に「DHCP under claimed」と表示されているときはプロバイダとの接続に失敗しています。

[開放/切断] をクリックしてから [更新/接続] をクリックしてください。

それでも「リンクステータス」に「DHCP under claimed」と表示されているときは、再度モデムと本製品の接続を確認してください。

それでも解決しないときは「付録A. ネットワークQ&A」を参照してください。

4-3.PPPoE接続の設定

注意

WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。

・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。

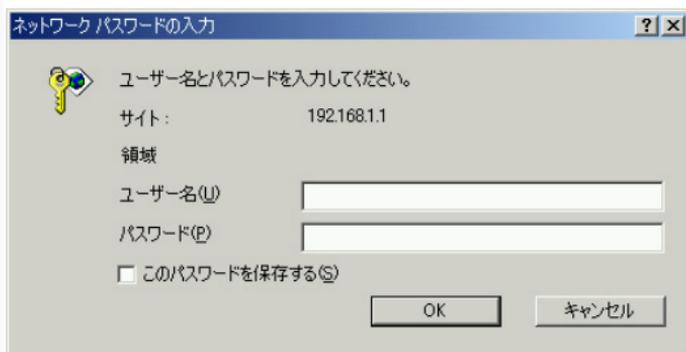
Internet Explorerでは「表示(ツール)」、「インターネットオプション」、「接続」、「LANの設定」、Netscapeでは「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄（Internet Explorerでは「アドレス」、Netscapeでは「場所」）に本製品のLAN側のIPアドレス（デフォルト値は「192.168.1.1」）を入力し、<Enter>を押します。

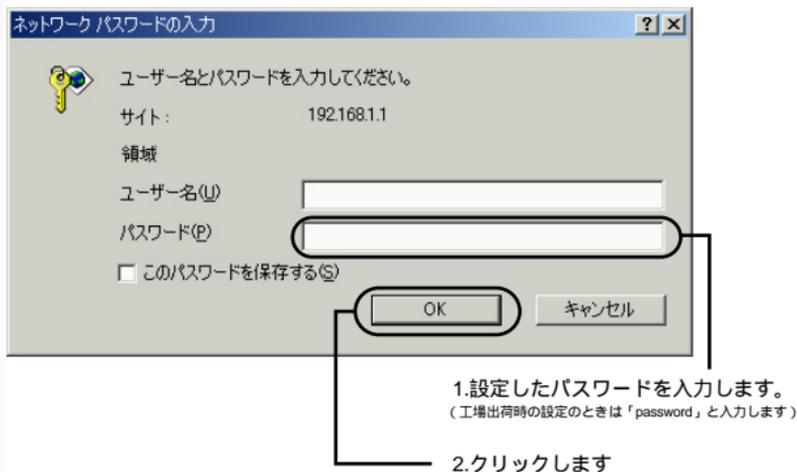


192.168.1.1と入力します

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。



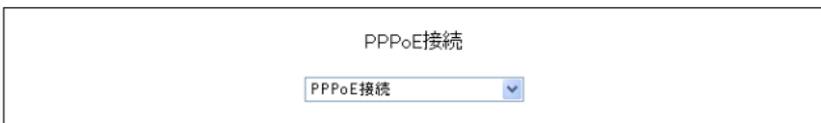
4. 本製品に設定したパスワードを入力してください。(工場出荷時の設定ではユーザ名は空欄、パスワードは「password」に設定されています。[OK]をクリックします。



5. 本製品の設定画面が表示されます。
メニューから「WAN側設定」を選択します。



6. WAN側設定画面が表示されます。プルダウンメニューから「PPPoE接続」を選択します。



7. 「PPPoE接続」ページが表示されます。各項目にプロバイダから指定された値を入力します。

「MACアドレス」

WAN側ポートのMACアドレスを変更するときに入力します。
PPPoE接続では通常は使用しません。

「ホスト名」

プロバイダからホスト名が指定されているときに入力します。
通常は特に指定する必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダからドメイン名が指定されているときに入力します。
通常は特に指定する必要はありません。

「使用するプロファイル」

本製品はPPPoE接続アカウント情報を2個まで登録できます。
各アカウント情報は2つのプロファイルに分けて登録されます。
登録するプロファイル番号を選択するだけでアカウント設定を切り替えできます。
詳細は「4-4.PPPoEマルチセッション接続設定」を参照してください。

「ユーザー名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザー名（アカウント名）を入力します。

大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：PCi123456@planex.co.jp

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のパスワードを入力します。

大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

入力内容はセキュリティのために「」で隠されます。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：pclBRL04g

「パスワード再入力」

パスワードの確認のために「パスワード」で入力したパスワードをもう一度入力します。

ここでも入力内容は「」で隠されます。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：pclBRL04g

「サービス名」

プロバイダからPPPoE接続サービス名を指定されたときのみ入力します。

通常は指定がないかぎり入力しないでください。

設定範囲：半角文字0～63文字

PPPoE接続

PPPoE接続

デバイス設定

MACアドレス: 00 - 90 - CC - E9 - E0 - C3 変更

ホスト名: BRL-04G

ドメイン名:

PPPoE接続設定

PPPoEアカウント 使用するプロファイル: 1 2

ユーザ名: guest@flets

パスワード:

パスワードの再入力:

サービス名:

MTUサイズ: 1454

固定IPアドレス

固定DNSサーバ

プライマリ:

セカンダリ:

自動切断: 5 分

自動接続

PPPoE マルチセッション接続アカウント

設定:

IPアドレス サブネットマスク

DNSクエリ

「MTUサイズ」

WAN側ポートのMTU値を指定します。
特に必要がないときは設定を変更しません。

「固定IPアドレス」

プロバイダからIPアドレスを固定で指定されているときに入力します。

設定範囲：半角数字1.0.0.1～223.255.255.254

「固定DNSサーバ」

プロバイダからDNSサーバアドレスを指定されているときに入力します。

本製品は2つまでDNSアドレスを登録できますが、セカンダリ

DNSサーバアドレスは予備のアドレスです。
必ずしも入力する必要はありません。
設定範囲：半角英字1.0.0.1～223.255.255.254

「自動切断 アイドルタイム」

無通信状態のときに切断するまでの時間を設定します
設定された時間、無通信だったときはPPPoE接続を切断します。
アイドルタイムを「0」に設定したときは自動切断しません。
LAN側から要求あったとき、自動的に接続します。
設定範囲：0～999分の範囲で設定できます。

「常時接続」

チェックをいれると本製品に接続している機器からの要求がなくても常に接続状態を保ちます。

「PPPoEマルチセッション接続アカウント」

「使用するプロファイル」で「2」を選択したときにチェックします。

PPPoEマルチセッション接続の設定方法は「4-4.PPPoEマルチセッション接続設定」を参照してください。

8. すべての設定が完了したら [設定] をクリックします。

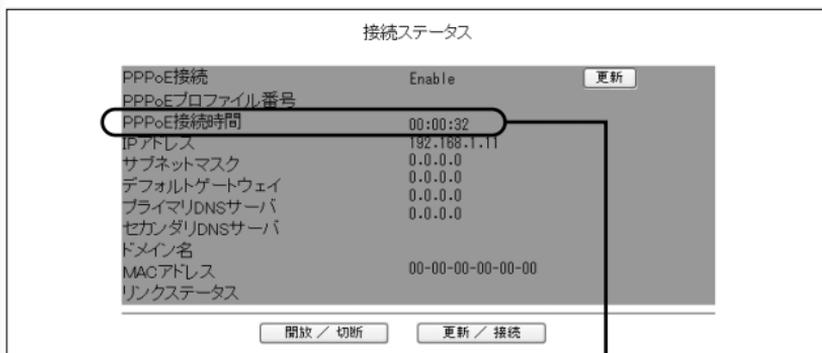
9. 設定が保存されます。[再起動] をクリックします。

- 10.本製品が再起動したら、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」をクリックします。



クリックします

- 11.接続ステータスが表示されます。「PPPoE接続時間」に時間が表示されていれば設定は完了です。



確認します

注意

「PPPoE接続時間」に「(Not Connected)」と表示されているときはプロバイダとの接続に失敗しています。

[開放/切断]をクリックしてから[更新/接続]をクリックしてください。

それでも「PPPoE接続時間」に「(Not Connected)」と表示されているときは、再度モデムと本製品の接続を確認してみてください。

また、設定内容をもう一度確認してください。それでも解決しないときは「付録A.ネットワークQ&A」を参照してください。

4-4.PPPoEマルチセッション接続設定

注意

WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。

・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。

Internet Explorerでは「表示(ツール)」「インターネットオプション」「接続」「LANの設定」、Netscapeでは「編集」「設定」「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

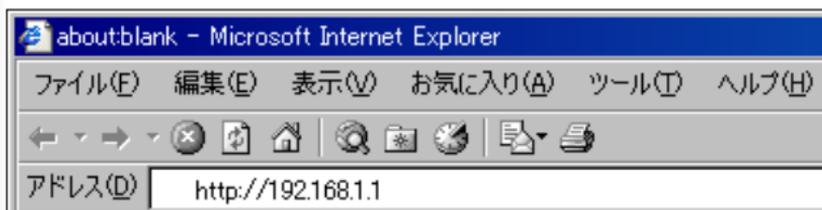
PPPoEマルチセッション設定をする前に「4-3.PPPoE接続設定」でPPPoE接続設定(プライマリセッション接続設定)をします。

マルチセッション接続とは？

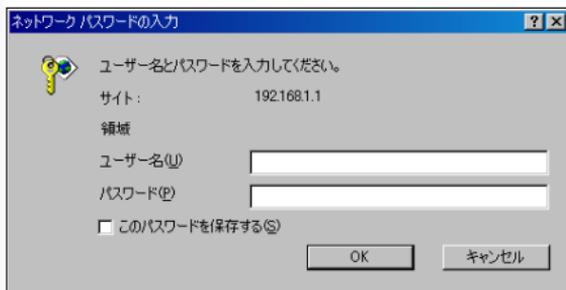
本製品は、同時に複数のPPPoE接続相手先との通信が可能なセカンダリセッション接続(マルチセッション)に対応しています。これは1つのWANアクセス機器(ブロードバンドルータなど)が、複数のPPPoEアカウントを使って、それぞれ異なるネットワークに接続できる機能です。本製品は、最大2つのPPPoEセッションに同時接続できます。(PPPoE 2セッションサポート)

マルチセッション(セカンダリセッション)接続設定方法

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Internet Explorerでは「アドレス」、Netscape では「場所」)に本製品のLAN側のIPアドレス(デフォルト値は「192.168.1.1」)を入力し、<Enter>を押します。



3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。



4. 本製品に設定したパスワードを入力し、[OK]をクリックします。(初期設定では、ユーザ名は空欄、パスワードは「password」に設定されています。)

5. メニューから「WAN側設定」を選択します。



6. WAN側設定画面が表示されます。プルダウンメニューから「PPPoE接続」を選択します。



7. 「PPPoE接続」設定ページが表示されます。使用するプロファイルの「2」を選択します。

8. 各項目にプロバイダより指定された値を入力します。
ユーザ名、パスワード欄にセカンダリセッション用のアカウントを入力します。

「ユーザー名」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。

大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：PCi123456@Planex.co.jp

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続のパスワードを入力します。

大文字・小文字は別の文字として扱われますので正確に入力してください。

入力内容はセキュリティのために [] で隠されます。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：pclBRI04g

「パスワード再入力」

パスワードの確認のために「パスワード」で入力したパスワードをもう一度入力します。

ここでも入力内容はセキュリティのために [] で隠されます。

設定範囲：半角文字1～63文字

例：pclBRI04g

「サービス名」

プロバイダからPPPoE接続サービス名を指定されたときのみ入力します。

通常は指定がないかぎり入力しないでください。

設定範囲：半角文字0～63文字

PPPoE接続

PPPoE接続

デバイス設定

MACアドレス: 00 - 90 - 00 - 09 - E0 - 03 変更

ホスト名: BR1-04G

ドメイン名:

PPPoE接続設定

PPPoEアカウント 使用するプロファイル: 1 2

ユーザー名: guest@fleets

パスワード:

パスワードの再入力:

サービス名:

MTUサイズ: 1454

固定IPアドレス

固定DNSサーバ

プライマリ:

セカンダリ:

自動切断: 5 分

自動接続

PPPoE マルチセッション接続アカウント

設定:

IPアドレス サブネットマスク

DNSクエリ

「自動接続」「アイドルタイム」

無通信状態のときに切断するまでの時間を設定します
 設定された時間、無通信だったときはPPPoE接続を切断します。
 「アイドルタイム」を「0」に設定したときは自動切断しません。
 LAN側から要求あったとき、自動的に接続します。
 設定範囲：0～999分の範囲で設定できます。

「常時接続」

チェックをいれると本製品に接続している機器からの要求がなくとも常に接続状態を保ちます。

以下は、NTT東日本のフレッツスクウェアをご利用のときの入力例です。

9. マルチセッション（セカンダリセッション）接続ルールを設定します。

マルチセッション接続アカウントのチェックボックスをチェックします。

接続先をIPアドレスで指定するときは、「IPアドレス」を選択し、接続先のアドレスとサブネットマスクを入力して下さい。

接続先をURLで指定したいときは、「DNSクエリ」を選択して下さい。

DNSクエリの設定方法は、表を参照してください。

クエリの例

適合するアドレスの例	
.com	abc.com
.abc.com	www.abc.com
abc.com	abc.comのみ
www.abc.com	www.abc.comのみ
.abc	www.abc

10. すべての設定が終わったら[設定]をクリックします。

11. 設定が保存されます。[再起動]をクリックします。

注意

WEBブラウザ(インターネットエクスプローラなど)を使ってマルチセッション(セカンダリセッション)接続がうまくいかないときはメニューの「接続ステータス」の中の「開放/切断」ボタンをクリックしてから「更新/接続」ボタンをクリックしてください。

それでもうまくいかないときは、再度モデムと本製品の接続を確認してください。

また、設定内容をもう一度確認してください。

それでも解決しないときは「付録A.ネットワークQ&A」を参照してください。

4-5 固定IP接続の設定

注意

WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。

・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。

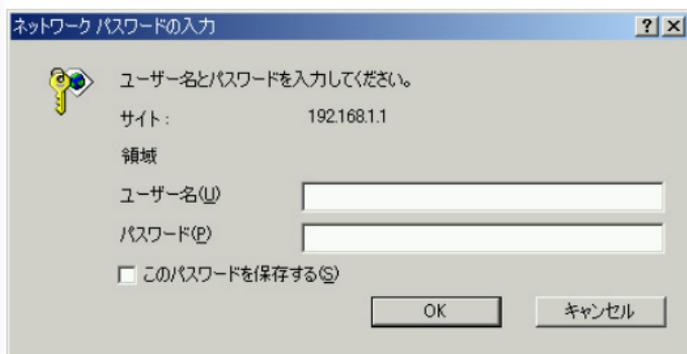
Internet Explorerでは「表示(ツール)」「インターネットオプション」「接続」「LANの設定」、Netscapeでは「編集」「設定」「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)」にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Internet Explorerでは「アドレス」、Netscapeでは「場所」) に本製品のLAN側のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、<Enter> を押します。

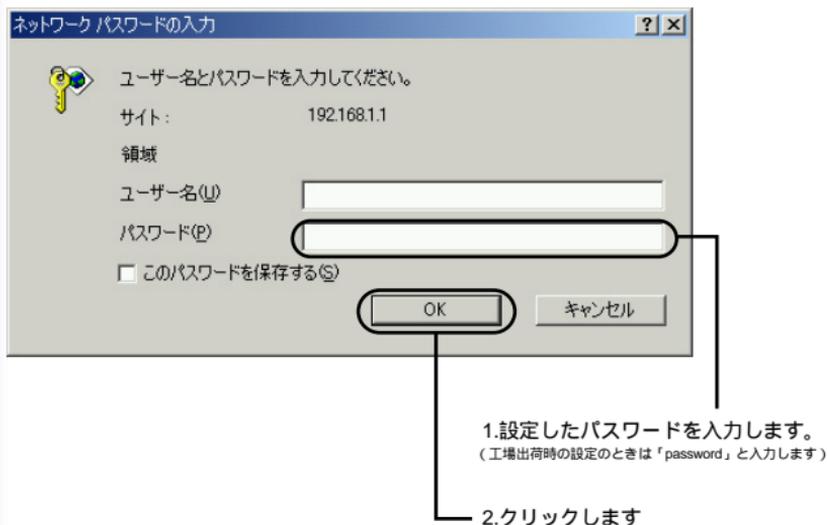


192.168.1.1と入力します

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。



4. 本製品に設定したパスワードを入力してください。(工場出荷時の設定ではユーザ名はなし、パスワードは「password」に設定されています。) OK をクリックします。



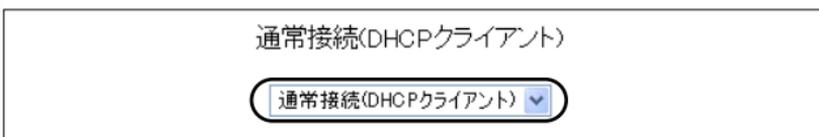
5. 本製品の設定画面が表示されます。

メニューから「WAN側設定」をクリックします。



クリックします

6. 「WAN側設定」が表示されます。「通常接続(固定IPアドレス)」を選択します。



7.「通常接続(固定IPアドレス)」設定ページが表示されます。

プロバイダから指定されている「MACアドレス」「ホスト名」「ドメイン名」「IPアドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」「DNSサーバアドレス」を入力をします。

「MACアドレス」

WAN側ポートのMACアドレスを変更するときに入力します。

「ホスト名」

プロバイダからホスト名が指定されているときに入力します。

「ドメイン名」

プロバイダからドメイン名が指定されているときに入力します。

「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

設定範囲：半角数字 1.0.0.1 ~ 223.255.255.254

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

設定範囲：半角数字 255.0.0.0 ~ 255.255.255.252

「デフォルトゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

設定範囲：半角数字 1.0.0.1 ~ 223.255.255.254

デバイス設定	
MACアドレス:	<input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 変更
ホスト名:	<input type="text"/>
ドメイン名:	<input type="text"/>
IPアドレス設定	
IPアドレス:	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
サブネットマスク:	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ:	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
DNSサーバ設定	
プライマリ:	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
セカンダリ:	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
<input type="button" value="やり直し"/> <input type="button" value="設定"/>	

「DNSサーバ」

プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。本製品は2つまでDNSアドレスを登録できますが、セカンダリDNSサーバアドレスは予備用のアドレスですので、必ずしも入力する必要はありません。

設定範囲：半角数字 1.0.0.1 ~ 223.255.255.254

8. すべて設定が終わったら[設定]をクリックします。

9. 設定が保存されます。[再起動]をクリックします。

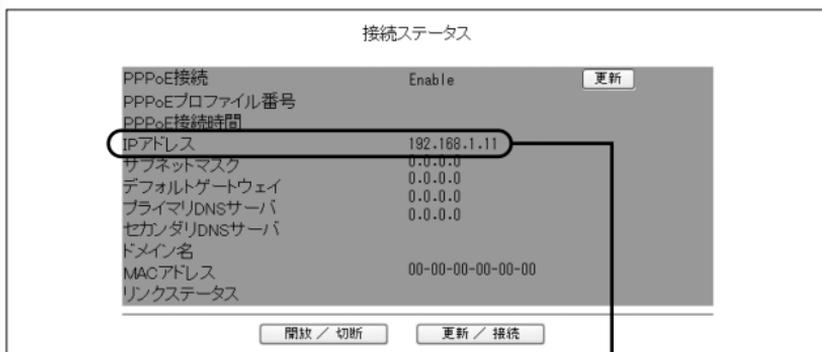
設定が変更されました。設定を有効にする為に再起動してください。
<hr/>
<input type="button" value="再起動"/>

10.本製品が再起動したら、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」をクリックします。



クリックします

11.接続ステータスが表示されます。「IPアドレス」が表示されていれば設定は完了です。



確認します

注意

「IPアドレス」が正しく表示されていないときはプロバイダとの接続に失敗しています。再度モデムと本製品の接続を確認してみてください。また、設定を再度確認してみてください。それでも解決しないときは「付録A.ネットワークQ&A」を参照してください。

第5章 具体的な運用例

本章では具体的な運用方法を例に挙げて、本製品においてどの機能を使って設定を行うのかをご案内します。

5-1.サーバを公開したい

本製品のLAN側にあるコンピュータをサーバとして公開したり、ネットワークゲームをプレイする場合には、「ローカルサーバ」機能を使用します。特定のポートに対して外部(インターネット)からアクセスがあった場合に、本製品LAN側のコンピュータに通信を転送する設定を行うことができます。

WEBサーバを公開したい

本製品のLAN側ネットワークに接続されているコンピュータをWEBサーバとしてインターネットからアクセスできるようにする場合の設定例です。

メモ

本製品のLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. WEBサーバとして公開するコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定します。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

設定する「DNSサーバアドレス」がわからない場合は、プロバイダとの契約内容を確認するか、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」を選んで表示される「プライマリDNSサーバ」に表示されるアドレスを指定します。

MacOSの場合は「デフォルトゲートウェイ」「ルータアドレス」
「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。
コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. 本製品のWEB設定画面にログインし、「詳細設定」から「DMZ設定」をクリックします。



クリックします

3. ローカルサーバの設定画面が表示されます。「ローカルサーバ」項目について、以下のように設定します。

項目	設定	説明
Method	アプリケーション	リストされているアプリケーションから選択します。
アプリケーション (ポート)	HTTP (TCP 80)	Webサーバの使用するHTTPはTCP 80を使用します。
ローカルサーバ IPアドレス	192.168.1.200	WebサーバとなるコンピュータのIPアドレスです。

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ「追加」をクリックします。ローカルサーバリストにサーバが追加されます。

ローカルサーバ

ローカルサーバの追加

Method アプリケーション ポート

アプリケーション (ポート) HTTP (TCP 80)

プロトコル TCP UDP

1つ指定/範囲指定 1つ指定 範囲指定

ポート番号 [] ~ []

ローカルサーバ IPアドレス [192] . [168] . [1] [200]

ローカルサーバリスト

[すべて削除] [削除] リスト番号 [1]

4. クリックします

5. これで外部（インターネット）からのWAN側IPアドレスにアクセスがあると、そのアクセスがポート80宛てだった場合、LAN側の「192.168.1.200」のIPアドレスが設定されたコンピュータへ転送されます。

5-2. ネットワークゲームをプレイしたい

本製品のLAN上のコンピュータでネットワークゲームをプレイする場合の設定例です。

ネットワークゲームは他のプレイヤーの操作した結果が、接続中のサーバから随時送信されてくるため、外部からアクセスが発生することになります。サーバを公開するときと同じようにしてそのゲームで使用しているポートを開放する必要があります。

本製品のLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

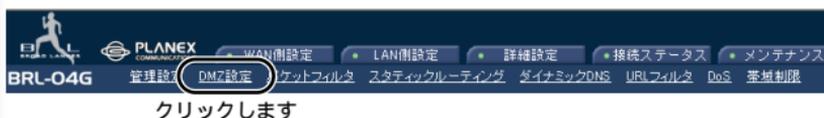
1. ネットワークゲームをプレイするコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

設定する「DNSサーバアドレス」がわからない場合は、プロバイダとの契約内容を確認するか、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」を選んで表示される「プライマリDNSサーバ」に表示されるアドレスを指定してください。

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. 本製品のWEB設定画面にログインし、「詳細設定」から「DMZ設定」をクリックしてます。



3. ローカルサーバの設定画面が表示されます。「ローカルサーバ」項目について、以下のように設定します。

ここでは「DirectX」対応のネットワークゲームで良く使用されるポートを参考に、設定例を紹介します。

TCP&UDP : 2300 ~ 2400

TCP : 47624

項目	設定	説明
Method	ポート	リストされていないので直接ポートを指定します。
プロトコル	TCP	TCPとUDPの両方を使用しますので、まずTCPから設定します。
1つ指定／範囲指定	範囲指定	ポートを範囲で指定します。
ポート番号	2300~2400	指定されているポートの範囲を設定。
ローカルサーバIPアドレス	192.168.1.200	ゲームをプレイするコンピュータのIPアドレスです。

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ **追加** をクリックします。
ローカルサーバリストにサーバが追加されます。

ローカルサーバ

ローカルサーバの追加

Method アプリケーション ポート

アプリケーション (ポート) FTP (TCP 21) ▼

プロトコル TCP UDP

1つ指定／範囲指定 1つ指定 範囲指定

ポート番号 2300 ~ 2400

ローカルサーバIPアドレス 192 . 168 . 1 . 200

ローカルサーバリスト

1. UDP(2300 to 2400) 192.168.1.200

2. TCP(47264 to 47264) 192.168.1.200

1 ▼

4. クリックします

5. 全部で3つのリストがローカルサーバリストに登録されていれば設定変更が完了です。

メモ

上記の設定はあくまで一例です。ゲームによって使用するポートが異なりますので、ゲームの説明書やヘルプなどを参照してそのゲームで使っているポート番号を確認してください。

(ただし、必要なポートを設定してもプレイできないゲームもありますのであらかじめご了承ください)。

5-3. コンピュータを直接接続した時と同じ状態にしたい(DMZ)

特定のポートだけを開放する「ローカルサーバ」に対して、DMZホストは外部（インターネット）からの通信を指定したコンピュータにすべて転送します。ローカルサーバではうまく動作しなかった場合は、DMZホスト機能を使用するとうまく動作する場合があります。

1. DMZホストにするコンピュータのIPアドレスを以下のように固定設定してください。

項目	設定値
IPアドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバアドレス	プロバイダ指定のDNSサーバアドレス

設定する「DNSサーバアドレス」がわからない場合は、プロバイダとの契約内容を確認するか、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」を選んで表示される「プライマリDNSサーバ」に表示されるアドレスを指定してください。

MacOSの場合「デフォルトゲートウェイ」は「ルータアドレス」に、「DNSサーバアドレス」は「ネームサーバアドレス」になります。コンピュータのIPアドレスの設定方法の詳細については、OSのマニュアルやヘルプをご覧ください。

2. 本製品のWEB設定画面にログインし、「詳細設定」から「DMZ設定」をクリックしています。

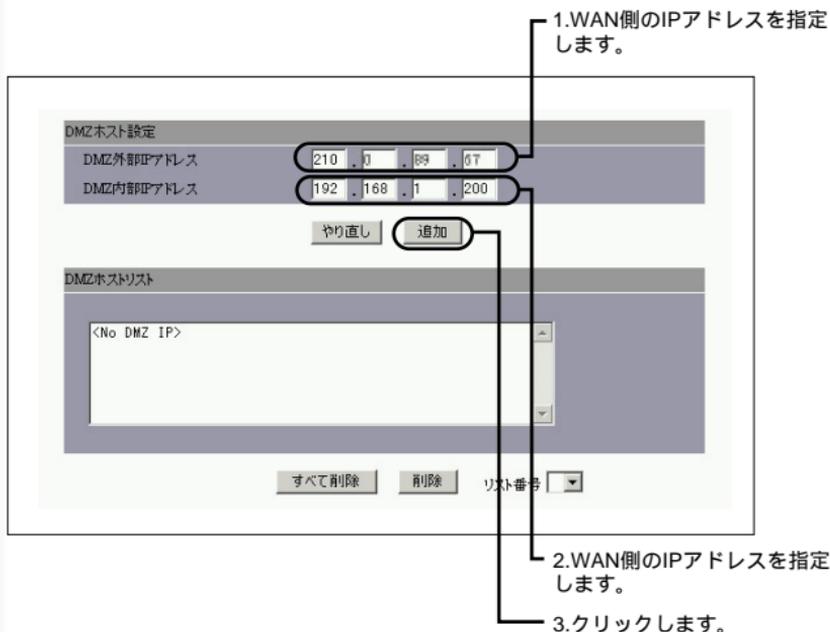


3. DMZホストの設定画面が表示されます。「DMZホスト」項目について、以下のように設定します。

項目	設定	説明
DMZ外部IPアドレス	WAN側のIPアドレス	現在WAN側に割り当てられているIPアドレスです。
DMZ内部IPアドレス	192.168.1.200	DMZホストにするコンピュータのIPアドレスです。

設定するWAN側のIPアドレスがわからない場合は、プロバイダとの契約内容を確認するか、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」を選んで表示される「IPアドレス」に表示されるアドレスを指定してください。

4. 入力内容を確認し、間違いがなければ **追加** をクリックします。
DMZホストリストにDMZホストが追加されます。



5. これで外部（インターネット）からのWAN側IPアドレスにアクセスがあると、LAN側の「192.168.1.200」のIPアドレスが設定されたコンピュータへ転送されます。

注意

ご利用のアプリケーションによってはDMZホスト機能を使っても正常に動作しない場合があります。DMZホスト機能を使っても動作しない場合は、ルータ経由でのご利用が難しい可能性が高いかと思われます。

5-4.インターネットへの通信を制限したい

本製品を経由してインターネット接続する場合、基本的には何も制限されていません。

そのままだと、NBTなどインターネット側に流出してしまったりは困る通信も外部に発信している可能性もあります。そのため、あらかじめそういった外に出す必要のないサービスについてフィルタリングを行う方法をご説明します。

設定例

ここでは、LAN側からWAN側へのTCPとUDP両方の135番から139番までのフィルタリングを例に、フィルタ設定を順を追って説明します。（これらはWindowsのNetBIOSで利用されるポートで、主にLAN内での通信に使われます。）

TCP 135 ~ 139

UDP 135 ~ 139

注意

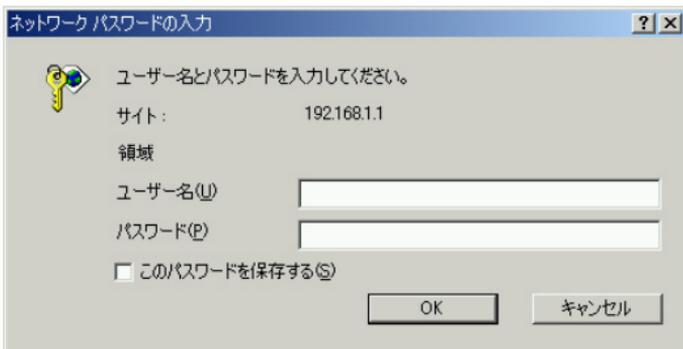
本製品のLAN側IPアドレスが出荷時のままであると仮定した場合の設定になります。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄 (Internet Explorerでは「アドレス」、Netscapeでは「場所」) に本製品のLAN側のIPアドレス (デフォルト値は「192.168.1.1」) を入力し、<Enter> を押します。

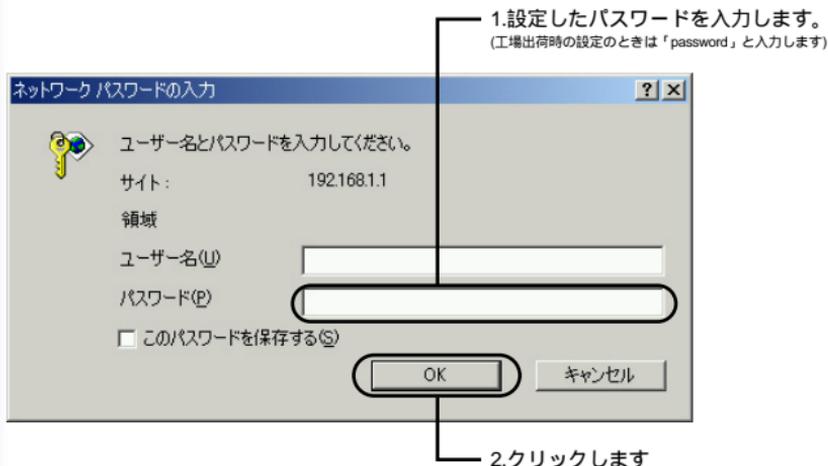


192.168.1.1と入力します

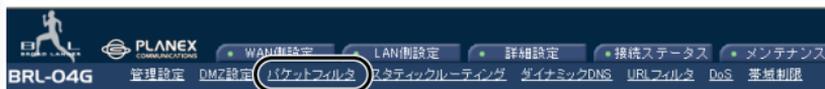
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。



4. 本製品に設定したパスワードを入力してください。(工場出荷時の設定ではユーザ名は空欄、パスワードは「password」に設定されています。)[OK]をクリックします。



5. 本製品の設定画面が表示されます。
「詳細設定」から「パケットフィルタ」をクリックします。



クリックします

6. パケットフィルタリングの設定画面が表示されます。「TCP/UDPポートフィルタリング」から制限をかけるサービスポートを指定します。

項目	設定値
破棄する／通過させる	破棄する
一つ指定／範囲指定	範囲指定
ポート番号	135～139
プロトコル	TCP

7. 入力内容を確認し、間違いがなければ「追加」をクリックします。フィルタリングに追加されます。

TCP/UDPポートフィルタリング

破棄／通過 破棄する 通過させる

一つ指定／範囲指定 一つ指定 範囲指定

ポート番号 135 ~ 139

プロトコル TCP UDP

4. クリックします

フィルタリングリスト

リスト番号 1

8. 全部で2つのフィルタリングリストが登録されていれば設定完了です。これで、インターネット側に不要に流出するNet BIOSパケットを制限することができます。

第6章 詳細設定

本製品は、WEBインターフェースを採用しOSに依存せず、また特殊なアプリケーションを使用することなく各種の機能設定を行うことができます。

本章では本製品の各機能の設定について説明します。

6-1 設定画面を開く

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Internet Explorerでは「アドレス」、Netscapeでは「場所」)に本製品のLAN側のIPアドレス(デフォルト値は「192.168.1.1」)を入力し、<Enter>を押します。



192.168.1.1と入力します

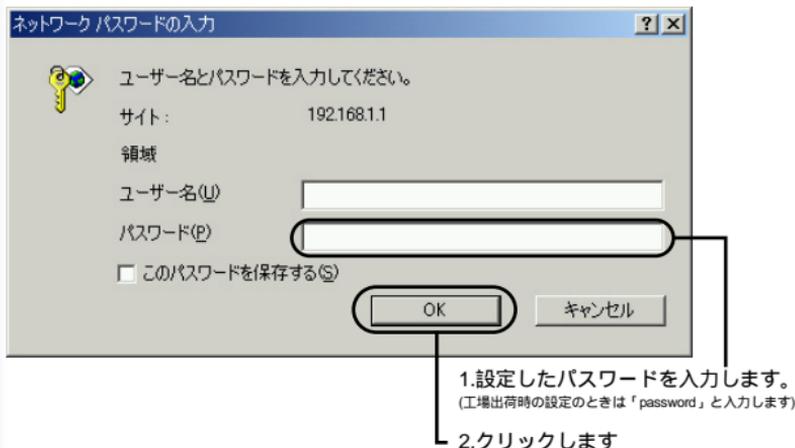
注意

WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。

ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示 (ツール)」 「インターネットオプション」 「接続」 「LANの設定」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン (アドレス) にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

PPPoE接続の場合、本製品が接続処理を行うのでプロバイダから配布されるPPPoE接続ソフトウェアは必要ありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。
4. 本製品に設定したパスワードを入力してください。(工場出荷時の設定ではユーザ名は空欄、パスワードは「password」に設定されています。] OK をクリックします。



5. 本製品の設定画面が表示されます。

The screenshot displays the configuration interface for the WAN side port of the BRL-04G device. At the top, there is a navigation bar with the following tabs: WAN側設定, LAN側設定, 詳細設定, 接続ステータス, and メンテナンス. The main title of the page is "WAN側ポート詳細設定".

Below the title, there is a dropdown menu set to "通常接続(DHCPクライアント)".

The "デバイス設定" (Device Settings) section includes:

- MACアドレス: A field with a grid of input boxes and a "変更" (Change) button.
- ホスト名: A text input field.
- ドメイン名: A text input field.

A note states: "IPアドレスは自動的に取得されます。" (IP address is automatically obtained).

The "DNSサーバ設定" (DNS Server Settings) section includes:

- DNSサーバ: Radio buttons for "自動取得" (Automatic) and "固定設定" (Fixed).
- プライマリ: A text input field.
- セカンダリ: A text input field.

At the bottom of the form, there are two buttons: "やり直し" (Reset) and "設定" (Apply).

6-2 LAN側ネットワーク設定

本製品のLAN側ネットワークの設定を行います。

1. メニューから「LAN側設定」をクリックします。



2. 「LAN側ネットワーク」設定ページが表示されます。

LAN側ネットワーク

LANポートアドレス

IPアドレス:

サブネットマスク:

DHCPサーバ

DHCPサーバ機能を無効にする

DHCPサーバ機能を有効にする

割当開始IPアドレス:

割当IPアドレス数: (1~253)

DHCP固定IPアドレス:

WINSサーバ:

LANポートアドレス

IPアドレス：

このアドレスがLAN側から見た本製品のIPアドレスになります。LAN側ネットワークのコンピュータの設定に関して、WEB設定用URLやデフォルトゲートウェイで参照するアドレスにもなりません。

そのため、このアドレスを変更した場合は、LAN側ネットワーク全体のネットワーク設定を変更する必要があります。

DHCPサーバ機能が有効であれば、変更されたネットワーク情報を提供するので、コンピュータ側で変更する必要はありません。

設定範囲：半角数字1.0.0.1～223.255.255.254初期値192.168.1.1

サブネットマスク：

本製品LANネットワークのサブネットマスクを入力します。

設定範囲：半角数字255.0.0.0～255.255.255.252初期値255.255.255.0

入力が完了したら[設定]をクリックします。設定が保存され本製品が再起動します。

DHCPサーバ

本製品のDHCPサーバ機能の設定を行います。

DHCPサーバ機能はDHCPクライアント（コンピュータなど）の要求に応じてIPアドレスなどのネットワーク情報割り当てを自動的に行います。これにより、本製品に接続するコンピュータはネットワーク設定を意識せずに同一ネットワークホストやインターネットへの通信ができるようになります。（*1）

*実際に割り当てられる情報について

IPアドレス・サブネットマスク・デフォルトゲートウェイは、「LANポートアドレス」の情報に基づきます。

DNSサーバアドレスは、インターネット接続で取得・設定されたアドレスが適用されます。

(*1) 各々のコンピュータはDHCPサーバからの自動割り当てを受けるために「3章.コンピュータの設定」にしたがって自動取得設定を有効にしておく必要があります。

DHCPサーバ機能を有効にする / 無効にする :

本製品のDHCPサーバ機能動作を選びます。DHCP機能を有効にすると、DHCPクライアント機能を利用しているPCに下記設定内容に基づいてネットワーク情報の自動割り当てを行います。(工場出荷時は有効になっています。)

DHCPサーバ機能を無効にしたときは別のDHCPサーバを使用するかLAN側のコンピュータのIPアドレスをすべて固定で設定する必要があります。

割り当て開始IPアドレス :

割り当てるIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを設定します。

割り当てIPアドレス数 :

割り当てるIPアドレスの数を設定します。「割り当て開始IPアドレス」から順に「割り当てIPアドレス数」だけLAN側のコンピュータにIPアドレスが割り当てられます。

DHCP固定IPアドレス：

特定の機器に必ず同じIPアドレスを割り当てるときに設定します。[登録]をクリックすると「DHCP固定IPアドレス」設定画面が表示されます。

DHCP固定IPアドレス

固定割当の追加

IPアドレス：

MACアドレス： - - - - -

DHCP固定IPアドレステーブル

リスト番号	IPアドレス	MACアドレス
1		

固定割当の追加

IPアドレス：

機器に割り当てるIPアドレスを入力します。

MACアドレス：

IPアドレスを割り当てる機器のMACアドレスを入力します。

[追加]をクリックすると「DHCP固定IPアドレステーブル」に登録されます。

登録が完了したら[戻る]をクリックして、「LAN側ネットワーク」設定ページに戻ります。

「WINSサーバ」

ローカルネットワーク内でWINSサーバを利用している場合に限りWINSサーバのIPを入力してください。

通常、使用していない場合は空欄のままにしてください。

設定範囲：半角数字1.0.0.1～223.255.255.254初期値空欄

入力が完了したら [設定] をクリックします。設定が保存され本製品が再起動します。

注意

DHCPサーバで割り当てるIPアドレス範囲に本製品のLAN側ポートのIPアドレスが含まれないように設定してください。

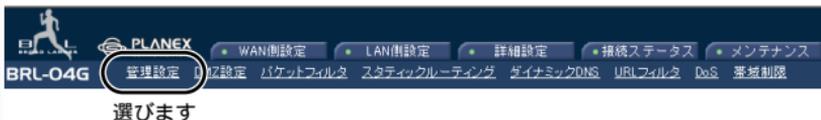
DHCP割り当て範囲の設定は、「基本設定」の「ローカルネットワーク設定」と連動した範囲で行うようにしてください。

例えば、「LAN側IPアドレス」を192.168.1.1「サブネットマスク」を255.255.255.240とした場合、ネットワーク範囲は、192.168.1.0～192.168.1.15までとなります。ここで「開始アドレス」が“100”だった場合、DHCP割り当てを受けたホストは本製品との通信ができなくなります。

6-3 管理設定

管理設定では本製品の管理者のアクセス権などを設定できます。

1. メニューの「詳細設定」から「管理設定」をクリックします。



2. 「管理設定」ページが表示されます。

管理設定

ファームウェアバージョン : 1.01.B00.266

管理者パスワードの変更

新しいパスワード :

新しいパスワードの再入力 :

管理者端末の制限 Enable

端末のMACアドレス 1 : - - - - -

端末のMACアドレス 2 : - - - - -

インターネットからのアクセスの禁止

インターネットからの管理の許可

Web管理用ポートの変更 有効

Web管理用ポート

FTPポート番号の変更 変更

FTP用ポート番号

ファームウェアバージョン：

現在の本製品のファームウェアバージョンが表示されます。

パスワードの変更：

本製品のWEB設定画面へアクセスするためのパスワードを設定します。パスワードの変更を行うにはチェックボックスにチェックを入れます。

新しいパスワード：

新しく設定するパスワードを入力します。半角英数で6文字以内で設定します。大文字と小文字は区別されます。

新しいパスワードの再入力：

新しく設定するパスワードを確認のためにもう一度入力します。

このルータへのアクセス制限：

「このルータへのアクセス制限」を有効にすると特定のMACアドレスのコンピュータからしかWEB設定画面にアクセスできなくなります。有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

許可するMACアドレス 1 / 2：

「このルータへのアクセス制限」を有効にしたときに、WEB設定画面にアクセス可能な機器のMACアドレスを入力します。ここで指定したMACアドレス以外の機器からはWEB設定画面にアクセスできなくなりますので、間違えないように入力してください。機器は2台まで設定できます。

インターネットからこのルータへのアクセスを禁止する：
この設定を有効にするとインターネット側からの本製品のWAN側IPアドレスへのアクセスを禁止することができます。この機能を有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

インターネットからこのルータへのアクセスを許可する：
この設定を有効にするとインターネット側から本製品のWAN側IPにアクセスしてWEB設定画面を開くことができるようになります。この機能を有効にしたときは不正アクセスによって本製品の設定が変更されてしまう可能性がありますので通常は有効にしないことを推奨します。この機能を有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

WEB管理用ポートの変更：

この機能を有効にするとWEB設定画面へのアクセス時のポート番号を変更します。使用されるポート番号は「WEB管理用ポート」で指定したポート番号になります。この機能を有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

WEB管理用ポート：

「WEB管理用ポートの変更」を有効にしたときに使用するポート番号を指定します。ここで指定したポート番号はLAN側からのアクセス、WAN側からのアクセス双方に適用されます。

FTPポート番号の変更：

この機能を有効にするとFTPを使用したときのポート番号を変更します。使用されるポート番号は「FTP用ポート番号」で指定したポート番号になります。この機能を有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

FTP用ポート番号：

「FTPポート番号の変更」を有効にしたときに使用するポート番号を指定します。ここで指定したポート番号はLAN側からのアクセス、WAN側からのアクセス双方に適用されます。

入力が完了したら **設定** をクリックします。設定が保存されます。

6-4 DMZ設定

DMZ設定では本製品のインターネット側からのアクセスを特定のLAN側のコンピュータに転送するローカルサーバ機能とDMZホストの設定ができます。

1. メニューの「詳細設定」から「DMZ設定」をクリックします。



ローカルサーバ

ローカルサーバの追加

Method アプリケーション ポート

アプリケーション (ポート)

プロトコル TCP UDP

1つ指定/範囲指定 1つ指定 範囲指定

ポート番号 ~

ローカルサーバIPアドレス . . .

ローカルサーバリスト

リスト番号

DMZホスト設定

DMZ外部IPアドレス . . .

DMZ内部IPアドレス . . .

DMZホストリスト

リスト番号

2. 「ローカルサーバ」ページが表示されます。

ローカルサーバの追加

ローカルサーバ機能を利用すると、特定のポートへのインターネット側からのアクセスをLAN側の特定のコンピュータに転送することができます。これによってLAN側に設置したWEBサーバやFTPサーバをインターネットに公開することができるようになります。

Method :

ローカルサーバで使用するポート番号の指定方法を選びます。「アプリケーション」を選択したときはあらかじめ本製品に設定されているアプリケーションリストからローカルサーバで設定するポートを指定します。「ポート」を選択したときは任意のポート番号を単一または範囲で指定します。

アプリケーション(ポート) :

「Method」で「アプリケーション」を選択したときにローカルサーバで使用するアプリケーションをプルダウンメニューから選びます。

プロトコル :

ローカルサーバで使用するアプリケーションのプロトコルを選びます。

1つ指定 / 範囲指定 :

ローカルサーバで使用するアプリケーションのポートを単一で登録するか範囲で登録するかを指定します。

ポート番号 :

ローカルサーバで使用するアプリケーションのポートを入力します。

ローカルサーバIPアドレス :

ローカルサーバで使用するコンピュータのIPアドレスを入力します。

入力内容を確認し、間違いがなければ [追加] をクリックします。
ローカルサーバリストにサーバが追加されます。

ローカルサーバリスト

ローカルサーバで設定されたコンピュータとポートのリストが表示されます。

ローカルサーバを削除するときは、削除したいローカルサーバを「リスト番号」のプルダウンメニューから選択して [削除] をクリックします。 [すべて削除] をクリックすると登録されているローカルサーバはすべて削除されます。

DMZホスト設定

DMZホスト機能を使用するとインターネット側からのアクセスをすべて特定のコンピュータに転送することができます。これによりDMZホストに設定されたコンピュータはインターネットに直接接続しているかのように扱うことができるようになります。

DMZ外部IPアドレス :

WAN側ポートのIPアドレスを入力します。設定するWAN側のIPアドレスがわからない場合は、プロバイダとの契約内容を確認するか、メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」を選択して表示される「IPアドレス」に表示されるアドレスを指定してください。

DMZ内部IPアドレス：

DMZホストに指定するコンピュータのIPアドレスを入力します。

DMZホストリスト

DMZホストに設定されたコンピュータが表示されます。

DMZホストを削除するときは、削除したいDMZホストを「リスト番号」のプルダウンメニューから選択して[削除]をクリックします。[すべて削除]をクリックすると登録されているDMZホストはすべて削除されます。

6-5 パケットフィルタ設定

「パケットフィルタ」ではLAN側からWAN側へのアクセスを制限する設定ができます。

1. メニューの「詳細設定」から「パケットフィルタ」をクリックします。



選びます

2. 「パケットフィルタリング」設定ページが表示されます。

MACアドレスフィルタリング

パケットフィルタリング

MACアドレスフィルタリング

破棄/通過 破棄する 通過させる

MACアドレス: - - - - -

IPアドレスフィルタリング

破棄/通過 破棄する 通過させる

1つ指定/範囲指定 1つ指定 範囲指定

IPアドレス範囲 始点: . . .

終点: . . .

破棄/通過させるIPアドレス 送信元IP 送信先IP

TCP/UDPポートフィルタリング

破棄/通過 破棄する 通過させる

1つ指定/範囲指定 1つ指定 範囲指定

ポート番号 ~

プロトコル TCP UDP

パケットフィルタリングをMACアドレスベースでおこなうときに設定します。

破棄/通過：

パケットの処理を指定します。「破棄する」を指定したときは設定したMACアドレスからのパケットはすべて破棄します。これにより特定の機器からのインターネットへのアクセスを禁止できます。「通過させる」を指定したときは設定したMACアドレス以外からのパケットをすべて破棄します。これにより特定の機器だけがインターネットにアクセスできるようになります。

MACアドレス：

フィルタリングリストに追加するMACアドレスを入力します。

入力内容を確認し、間違いがなければ[追加]をクリックします。フィルタリングリストにMACアドレスフィルタリングが追加されます。

IPアドレスフィルタリング

パケットフィルタリングをIPアドレスベースでおこなうときに設定します。

破棄/通過：

パケットの処理を指定します。「破棄する」を指定したときは設定したIPアドレスからのパケットはすべて破棄します。「通過させる」を指定したときは設定したIPアドレス以外からのパケットをすべて破棄します。

1つ指定/範囲指定：

IPアドレスフィルタリングに登録するIPアドレスを単一で登録するか範囲で登録するかを選びます。

IPアドレス範囲：

フィルタリングリストに追加するIPアドレスを指定します。「単一」でIPアドレスを指定するときは「始点」のみ入力します。「範囲」でIPアドレスを指定するときは「始点」と「終点」を入力します。

破棄/通過させるIPアドレス：

パケットの流れてくる方向を指定します。「送信元IP」を指定し

たときは設定したLAN側の機器から流れてくるパケットのIPアドレスが設定したIPアドレスと一致したときにフィルタリングの設定が適用されます。「送信先IP」を指定したときはインターネット側から流れてくるパケットのIPアドレスが設定したIPアドレスと一致したときにフィルタリングの設定が適用されます。

入力内容を確認し、間違いがなければ[追加]をクリックします。フィルタリングリストにIPアドレスフィルタリングが追加されません。

TCP/UDPポートフィルタリング

パケットフィルタリングをポートベースでおこなうときに設定します。

破棄 / 通過 :

パケットの処理を指定します。「破棄する」を指定したときは設定したポートを使用するパケットはすべて破棄します。これにより特定のアプリケーションによるインターネットへのアクセスを禁止できます。「通過させる」を指定したときは設定したポート以外を使用するパケットをすべて破棄します。これにより特定のアプリケーションだけがインターネットにアクセスできるようになります。

1つ指定 / 範囲指定 :

TCP/UDPポートフィルタリングに登録するポート番号を単一で登録するか範囲で登録するかを選びます。

ポート番号：

フィルタリングの設定を適用するポート番号を入力します。

プロトコル：

フィルタリングの設定を適用するプロトコルを指定します。

入力内容を確認し、間違いがなければ[追加]をクリックします。フィルタリングリストにTCP/UDPポートフィルタリングが追加されます。

フィルタリングリスト

設定されたフィルタリングルールの一覧が表示されます。フィルタリングリストへは「MACアドレスフィルタリング」「IPアドレスフィルタリング」「TCP/UDPポートフィルタリング」を合わせて24個まで登録できます。

フィルタリング設定を削除するときは、削除したいフィルタリング設定を「リスト番号」のプルダウンメニューから選択して[削除]をクリックします。[すべて削除]をクリックすると登録されているフィルタリング設定はすべて削除されます。

6-6 スタティックルーティング設定

「スタティックルーティング」では本製品のルーティングテーブルの設定ができます。

1. メニューの「詳細設定」から「スタティックルーティング」をクリックします。



2. 「スタティックルーティング」設定ページが表示されます。

The screenshot shows the 'スタティックルーティング' (Static Routing) configuration page. It features a '機能設定' (Function Settings) section with two static routes. Each route has a checkbox, a label, and three input fields for IP address, subnet mask, and gateway. The first route is 'スタティックルート 1' and the second is 'スタティックルート 2'. At the bottom right, there are 'やり直し' (Reset) and '設定' (Apply) buttons.

スタティックルート 1 / 2 :

使用するスタティックルートにチェックを入れます。

宛先アドレス :

宛先ネットワークアドレスを入力します。

サブネットマスク：

宛先ネットワークのサブネットマスクを入力します。

ゲートウェイ：

宛先ネットワークへのゲートウェイを入力します。

入力が完了したら [設定] をクリックします。設定が保存されません。

6-7 ダイナミックDNS設定

本製品はwww.dyndns.orgをはじめとするダイナミックDNSサービスに対応しています。

対応するダイナミックDNSサービスに登録してあるユーザ名、パスワード、ドメイン名の情報を本製品に設定しておくことにより、自動的に登録内容の更新を行います。この機能を利用することで本製品を利用してWEBサーバなどを公開するとき、ユーザがドメイン名を指定することで公開サービスにアクセスできます。つまり本製品がインターネットへ接続するたびに取得するIPアドレスが異なっても自動的にIPアドレスの更新をDDNSサーバに対して行うのでユーザは常に同じドメイン名でアクセスできます。

サービスの詳細は各ダイナミックDNSのサービスサイトを参照してください。

この機能を利用するには、事前に使用するダイナミックDNSサイトにアクセスしてドメインの登録が必要となります。

1. メニューの「詳細設定」から「ダイナミックDNS」をクリックします。



選びます

2. 「ダイナミックDNS」設定ページが表示されます。

ダイナミックDNS機能：

ダイナミックDNS機能を有効にするときはチェックボックスにチェックを入れます。

ダイナミックDNSアカウント：

ダイナミックDNSサービスに登録したホスト名を入力します。また、登録したダイナミックサービスをプルダウンメニューから選びます。プルダウンメニューに無いダイナミックDNSサービスには対応していません。

ユーザ名：

ダイナミックDNSサービスに登録したユーザ名を入力します。

パスワード：

ダイナミックDNSサービスに登録したパスワードを入力します。

ワイルドカードの使用：

ワイルドカードを使用するとドメインの前に任意の文字列を付けられます。ただし、ワイルドカードに対応したダイナミックDNSサービスを利用する必要があります。ワイルドカードを使用するときはチェックボックスにチェックを入れます。

MXホスト名：

メールエクスチェンジを使用するときの転送先サーバのホスト名を入力します。

バックアップMXの使用：

チェックボックスにチェックを入れると、「MXホスト名」で指定したサーバをバックアップ用に使用します。

ステータス：

ダイナミックDNSサービスの利用状態が表示されます。

入力が完了したら [設定] をクリックします。設定が保存されません。

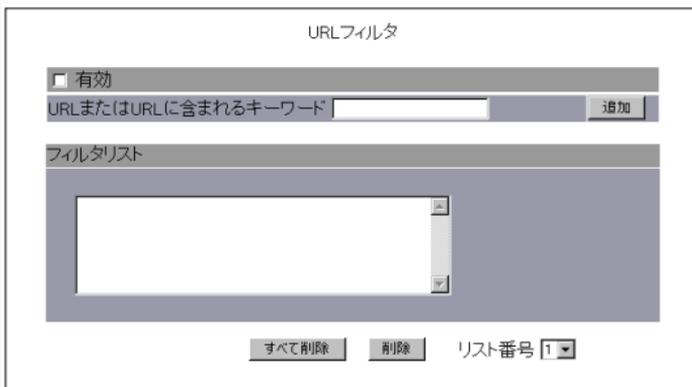
6-8 URLフィルタ設定

「URLフィルタ」では任意の文字列が含まれるURLのWEBページの表示を禁止することができます。

1. メニューの「詳細設定」から「URLフィルタ」をクリックします。



2. 「URLフィルタ」設定ページが表示されます。



有効：

URLフィルタリングを使用するときはチェックを入れます。

URLまたはURLに含まれるキーワード：

アクセスを禁止したいURLを入力します。またURLに含まれる文字列の一部指定してもアクセスを禁止することができます。

[追加] をクリックすると入力したURLまたはキーワードがブロックリストに追加されます。

フィルタリスト：

登録されたURLフィルタリストの一覧が表示されます。

URLフィルタ設定を削除するときは、削除したいURLフィルタ設定を「リスト番号」のプルダウンメニューから選んで [削除] をクリックします。 [すべて削除] をクリックすると登録されているURLブロック設定はすべて削除されます。

6-9 接続ステータス

接続ステータスではインターネットへの接続状態を表示します。

1. メニューの「接続ステータス」から「接続ステータス」をクリックします。



2. 「接続ステータス」ページが表示されます。

接続ステータス

PPPoE接続	Enable	<input type="button" value="更新"/>
PPPoEプロファイル番号	1	
PPPoE接続時間	0:00:01	
IPアドレス	210.1.1.1	
サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	210.1.1.1	
プライマリDNSサーバ	210.1.1.1	
セカンダリDNSサーバ	210.1.1.1	
ドメイン名		
MACアドレス	00-90-CC-11-22-33	
リンクステータス	Connect successfully.	

PPPoE接続：

現在のPPPoE接続状態を表示します。「Enable」と表示されているときはPPPoE接続を使用してインターネットに接続しています。「Disable」と表示されているときはPPPoE接続を使用せずにインターネットに接続しています。

PPPoEプロファイル番号：

PPPoE接続中に使用しているプロファイル番号が表示されます。
プロフィールに登録された接続アカウントで接続しています。

PPPoE接続時間：

PPPoE接続を開始してから接続し続けている時間です。PPPoEセッションが一度でも切れると接続時間は00:00:00に戻ります。

IPアドレス：

本製品のWAN側に割り当てられているIPアドレスが表示されます。

サブネットマスク：

WAN側のサブネットマスクが表示されます。

デフォルトゲートウェイ：

WAN側のデフォルトゲートウェイアドレスが表示されます。

プライマリDNSサーバ：

使用するDNSサーバのIPアドレスです。

セカンダリDNSサーバ：

バックアップ用のDNSサーバのIPアドレスです。

ドメイン名：

現在のドメイン名が表示されます。

MACアドレス：

本製品のWAN側のMACアドレスが表示されます。

リンクステータス：

現在の接続状況が表示されます。

[更新] をクリックすると最新の情報に更新します。

[解放 / 切断] をクリックすると、PPPoE接続のときは切断します。通常接続 (DHCP) のときはIPアドレスの解放します。

[更新 / 接続] をクリックすると、PPPoE接続のときは接続します。通常接続 (DHCP) のときはIPアドレスを取得します。

6-10 セッションリスト

「セッションリスト」では現在のセッション情報が表示されます。

1. メニューの「接続ステータス」から「セッションリスト」をクリックします。



2. 「セッションリスト」ページが表示されます。



タイプ :

プロトコルのタイプです。TCP/UDPのいずれかが表示されます。

IPローカル :

セッションを張っているLAN側のコンピュータのIPアドレスが表示されます。

ポートローカル :

LAN側のコンピュータが使用しているポート番号です。

ポート外部 :

WAN側が使用しているポート番号です。

IPリモート :

セッションの接続先IPアドレスが表示されます。

ポートリモート：

セッションの接続先のポート番号が表示されます。

未使用時間：

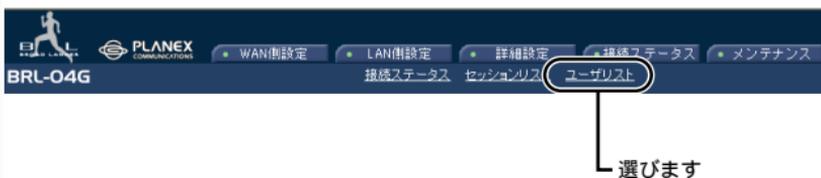
セッションが通信を止めてから経過した時間です。

[更新] をクリックすると最新の情報に更新します。

6-11 ユーザーリスト

「ユーザーリスト」ではDHCPサーバ機能によってIPアドレスを割り当てているコンピュータのリストが表示されます。

1. メニューの「接続ステータス」から「ユーザーリスト」をクリックします。



2.「ユーザリスト」ページが表示されます。



IPアドレス：

割り当てているIPアドレスが表示されます。

MACアドレス：

IPアドレスを割り当てられているコンピュータのMACアドレスが表示されます。

残り時間：

DHCPのIP貸し出し時間の残り時間が表示されます。

ホスト名：

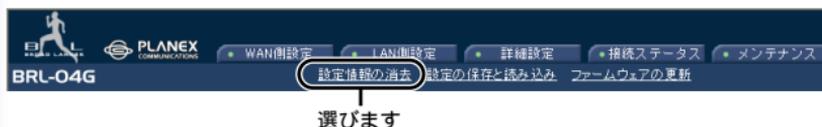
IPアドレスを割り当てられているコンピュータのホスト名が表示されます。

[更新] をクリックすると最新の情報に更新します。

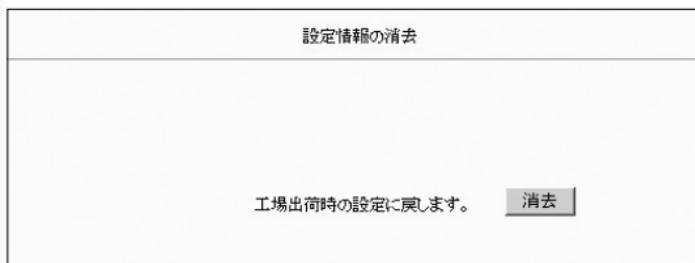
6-12 初期化

「初期化」では本製品を工場出荷時の状態に戻します。

1. メニューの「メンテナンス」から「初期化」をクリックします。



2. 「設定情報の消去」ページが表示されます。

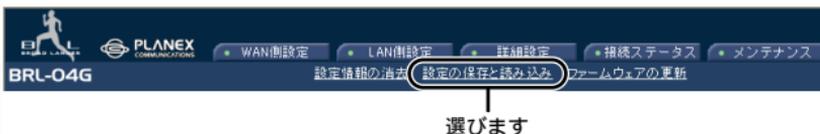


[消去] をクリックすると初期化の確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると本製品の設定が工場出荷時の状態に戻り再起動します。

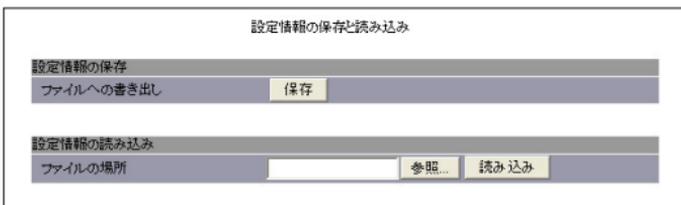
6-13 設定の保存

「設定情報の保存と読み込み」では本製品の設定情報をファイルに書き出したり、書き出したファイルから設定情報を読み込んだりできます。

1. メニューの「メンテナンス」から「設定の保存」をクリックします。



2. 「設定情報の保存と読み込み」ページが表示されます。



設定情報の保存

現在の設定情報を書き出すときは [保存] をクリックします。保存先を指定するウィンドウが表示されますので保存先と保存するファイル名を指定します。

設定情報の読み込み

設定情報を読み込みさせるには、[参照]をクリックします。ファイルを指定をするウィンドウが表示されますので、ファイルを指定して[OK]をクリックします。

[読み込み]をクリックすると指定したファイルから設定情報を読み込みます。

6-14 アップデート

「アップデート」では本製品のファームウェアのアップデートができます。

ファームウェアとは？

本製品を制御するためのプログラムにあたるものです。

機能追加・仕様変更などを施した最新のファームウェアが弊社のホームページから公開されるとダウンロードしてWEB設定画面上でアップグレードすることができます。

http://www.planex.co.jp/support/download/driver_router.shtml

このとき、ファームウェアバージョンを参照して頂くことにより該当するファームウェアであるかなどを確認することができます。

最新のファームウェアをダウンロードしたら、作業用コンピュータの任意のフォルダにコピーしてください。

また、アップデート作業時はアップデートに使用する作業用コンピュータ以外のケーブルははずしておきます。

1. メニューの「メンテナンス」から「アップデート」をクリックします。



選びます

2. 「ファームウェアの更新」ページが表示されます。

ファームウェアの更新



3. [参照] をクリックします。ファイルを指定するウィンドウが表示されますので、ダウンロードしたファームウェアファイルを指定します。
4. [書き込み] をクリックするとファームウェアのアップデートが開始されます。アップデート後、自動的に再起動します。メニューの「詳細設定」から「管理設定」をクリックしてファームウェアのバージョンが上がっていることを確認します。

注意

ファームウェアの更新中は絶対に本製品の電源を切らないでください。

付録A. ネットワーク Q&A

1. ブロードバンドルータの色々な「？」について

インターネットの急速な普及により、ブロードバンドルータ（以下、BBルータ）を使用する場面が増えてきました。特に多く寄せられる、LAN全般や弊社製品を使用する際にぶつかる疑問点についていくつかまとめてみました。

ネットワークはよく解らない...という方は是非ご一読ください。弊社製品に対する理解を深められることでしょう。

Q BBルータの設定は接続するコンピュータに対して全部で行うのですか？

A いいえ

複数台接続している環境であっても、いずれか1台のコンピュータからBBルータの設定を行うだけで完了します。

補足

設定作業を行った1台でBBルータを介してインターネットにアクセスできるようになっていれば、その時点でBBルータの設定は完了したことになります。他のコンピュータから同じように例えば、2台のコンピュータのうち、1台はインターネットにアクセスできるが、もう1台はアクセスできないという場合は、BBルータではなくコンピュータ側に問題があることが考えられます。

Q インターネットに接続できないのに、どうやって設定画面にアクセスするんですか？

A インターネットへの接続と関係なく、設定画面にアクセスできません。

設定画面はBBルータの中にあります。BBルータの中に設定用のホームページが存在しアクセスすることで、BBルータの設定を行っているのです。

ですから、BBルータがインターネット（モデム）につながっていなくてもコンピュータは設定画面にアクセスすることができるのです。

Q 「ブラウザ」ってなんですか？

A インターネット上のホームページ等を見るためのソフトです。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープ」等が代表的なソフトになります。

補足

BBルータのマニュアルでは「インターネットエクスプローラ」の画面が使われているので「ネットスケープではどうやって設定するんですか？」という質問も寄せられますが、例えば「yahoo」のホームページが「インターネットエクスプローラ」でも「ネットスケープ」でも見ることができるように、BBルータの設定画面も問題なく「ネットスケープ」で表示することができます。

補足A 本製品の画像圧縮にはJPEG形式が用いられています。

JPEG形式は最も一般的な圧縮形式の一つで、様々なWEBブラウザやアプリケーションで、特別なソフトのインストールなしに展開することが可能です。

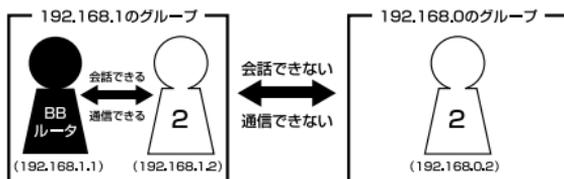
Q 「IPアドレス」ってなんですか？

A TCP/IPプロトコルを使ったネットワークにおいて、コンピュータごとに割り当てられる個別の数字のことを言います。

数字がちょっと変わるだけでアクセスできなくなったりする厄介なイメージがあると思いますが、簡単に考えるなら「学校のクラスと出席番号」に置き換えて考えると判り易いかと思います。例えばA君とB君とC君がいて、A君とB君は「1 1」組でC君が「1 2」組の場合、A君とB君は同じ教室なのでいつでも話をすることができますが、C君は教室が別なのでA君達とは会えません。IPアドレスもほとんどそれと同じような理屈になっています。実際のIPアドレスで例えるなら、BBルータのIPアドレスは出荷時には「192.168.1.1」というIPアドレスが設定されています。これは、BBルータ君は「192.168.1」組の出席番号「1」番という意味になります。

このBBルータ君と話をするにはコンピュータも「192.168.1」組に入らないと教室が別になるので話ができません。BBルータにアクセスするコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.2」であれば「192.168.1」組の出席番号「2」番になるので、そのコンピュータはBBルータ君と話をすることができます。もしコンピュータのIPアドレスが「192.168.0.2」だと、そのコンピュータは「192.168.0」組になるためBBルータ君とは教室が別になり、BBルータ君と話をするできません。

つまり、BBルータにアクセスするにはコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.**」という数字でなくてはならないのです。



上記の説明で「出席番号が同じになるとどうなるの?」という疑問を持った方もいると思います。

もし同じ出席番号の人が同じ教室に2人いたら混乱しますね? ネットワークもそれと同じで、IPアドレスは重複してはいけなくなっています。同じ番号のコンピュータが存在した場合、「その番号を使っている人が他にいますよ」という内容の警告メッセージがコンピュータ上に表示されません。

ここまで読んでいただいた方はもうお判りだと思いますが、IPアドレス「AA.BB.CC.DD」の3つ目(CC)までがネットワークのグループを表していて、最後の数字(DD)がコンピュータごとに設定される個別の数字ということになります。

補足

厳密にはもっと色々なルールがあるのですが、BBルータの設定画面にアクセスするには少なくとも上記レベルのルールが判っていれば、トラブルに遭った時の対処や問題の切り分けに役立つと思います。

2 設定画面にアクセスできない

ここではBBルータの設定画面にうまくアクセスできない場合の主な確認点及び確認方法をまとめました。ご利用のコンピュータに該当する項目がないかチェックしてください。

Q 設定画面にアクセスできないのですが？

A LANランプ、IPアドレス、プロキシ、セキュリティソフトそれぞれの項目が正しく設定されていないとアクセスできません。もう一度設定を確認してみてください。

また、BBルータとの通信が正常に行われていない可能性もあります。これはpingというコマンドを使って確認することができます。

LANランプ

LANランプは点灯していますか？

コンピュータが接続されて正常に通信ができる状態になると「LINK」と言われるランプが点灯します。

BBルータには「LAN」「Link/Act」「LAN LINK」等の名称で呼ばれるランプがついていますので、そのランプが点灯しているか確認してください。（詳しくはマニュアル第1章4の「各部の名称」をご覧ください）

・点灯しない場合

ランプが点灯していない場合、BBルータとコンピュータは通信できる状態になっていませんので、設定画面にもアクセスできません。いくつかの原因は考えられますが、まずはケーブルを交換してみてください。

正常にランプが点灯しているポートで使用中の、他のケーブルを使って接続してみてください。

ケーブル交換の後、正常にランプが点灯するようであれば、交換前に使用していたケーブルに問題がある（断線やクロスケーブルなど）ということになります。

IPアドレス

IPアドレスが正しく取得できていますか？

アクセスできない場合は、取得しているIPアドレスを確認してください。

BBルータには「192.168.1.1」というIPアドレスが出荷時に設定されており、BBルータにアクセスするにはコンピュータが「192.168.1.**」というIPアドレスを取得する必要があります（最後の「**」には1以外の数字が入ります）。

異なるIPアドレス（210.119.**.**等）を取得している場合はBBルータの設定画面にはアクセスできません。

・確認方法

主なOSでの確認方法は以下のようになりますので、取得しているIPアドレスの確認を行ってください。

Windows 98/98SE/Meの場合：

1. 「スタート」 「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」 「WINIPCFG」と入力 「OK」をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には1以外の数字が入ります）。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」 「プログラム」 「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG」と入力し、<Enter>を押してください。
3. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には1以外の数字が入ります）。

Macintoshの場合：

1. アップルメニューから「コントロールパネル」 「TCP/IP」を開いてください。
2. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください（**には1以外の数字が入ります）。

・まったく違うIPアドレスを取得している場合（Windowsのみ）
確認したIPアドレスが「192.168.1.**」ではなく、まったく違うIPアドレスを取得している場合、以下の方法で取得しているIPアドレスを開放して、再度IPアドレスを取得しなおすことができます。

Windows 98/98SE/Meの場合：

1. 「スタート」 「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」 「WINIPCFG」と入力 [OK] をクリックしてください。
2. 「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更 [すべて開放] をクリックしてください。
3. 「IPアドレス」が「0.0.0.0」になったのを確認してから [すべて書き換え] をクリックしてください。

4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば正しく取得できたこととなります（**には1以外の数字が入ります）。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。
2. キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG/RELEASE」と入力し、<Enter>を押してください。
3. 再度「IPCONFIG」と入力し、<Enter>を押してください。
4. 「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば、正しく取得できたこととなります（**には1以外の数字が入ります）。

ping

BBルータと正常に通信していますか？

・接続確認方法（Windowsのみ）

BBルータと通信できているかどうかは「ping」というコマンドで確認することができます。

Windows 98/98SEの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「MS DOSプロンプト」を選択、「MS DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。
2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、<Enter>を押します。

3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。

「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows Meの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「MS DOSプロンプト」を選択、「MS DOSプロンプト」のウィンドウが開きます。

2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、<Enter>を押します。

3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows 2000/XPの場合：

1. 「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「コマンドプロンプト」を選択、「コマンドプロンプト」のウィンドウが開きます。

2. ウィンドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、<Enter>を押します。

3. 「Pinging 192.168.1.1 with . . . 」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from 192.168.1.1 . . . 」というメッセージが返ってきていれば正常です。

- ・ 応答が「Request Timed Out」になる

「ping 192.168.1.1」と実行した時「Request Timed Out」と表示される場合は、IPアドレスが正しく取得できていないか、コンピュータのLANアダプタが正常に動作していない可能性が考えられます。

1.IPアドレスが正しく取得できているか確認してください。「IPアドレスが正しく取得できているか」に確認方法が記載されています。

2.LANアダプタが正常に動作しているか確認してください。確認方法はモデムに直接接続してインターネットにアクセスできれば正常です。

ブラウザのプロキシ (PROXY) 設定

不要な設定をしていませんか？

ブラウザのプロキシになんらかの設定が行われていると、アドレスに指定された所に接続する前に、プロキシで設定した所に接続しようとしてしまうため、設定画面にアクセスできない場合があります。その場合は以下のような手順でプロキシの設定を解除してください。

インターネットエクスプローラの場合 (5.0以降) :

- 1.メニューの「ツール」 「インターネットオプション」を選んでください。
- 2.「接続」タブをクリック 「LANの設定」ボタンをクリックしてください。
- 3.「自動設定」と「プロキシサーバ」のチェックボックスでチェックされている項目がありましたら、全ての項目のチェックを外してください。

4. [OK] をクリック 「ローカルエリアネットワークの設定」ウィンドウを閉じてください。
5. 再度 [OK] をクリック 「インターネットオプション」ウィンドウを閉じてください。
6. 一度インターネットエクスプローラを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

ネットスケープの場合：

1. メニューの「編集」「設定」を選択してください。
2. 「詳細」「プロキシ」を選択、「インターネットに直接接続する」をチェックしてください。
3. [OK] をクリック ウィンドウを閉じてください。
4. 一度ネットスケープを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

セキュリティ関連ソフトの影響

ウイルスバスターやノートンアンチウイルスなど、最近のウイルスチェックソフトには簡易ファイアウォールという機能を搭載した物が増えています。

ファイアウォールはアクセス許可をしていないIPアドレスからのパケット（通信）を遮断したりする機能です。

有効になっていると稀にBBルータとの接続時にファイアウォール機能が働いて設定画面がうまく表示されない事や、設定内容を保存するとエラーになること等があります。

ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティソフトをご使用になられている場合は、それらのソフトを停止させてみてください。停止方法が判らない場合は、各ソフトウエアのマニュアルをご覧ください。

3 インターネットにアクセスできない

ここではBBルータの設定を行ってもインターネットへのアクセスができない場合の、主な確認点及び確認方法をまとめました。

接続方法別にまとめてありますので該当する項目がないかチェックしてください。

設定画面にアクセスができない場合は、125ページ「設定画面にアクセスできないのですが?」をご覧ください。

共通項目 事前確認編

どの接続方法にも共通する、最初に確認すべき点です。

Q 設定画面ではすべて正しく設定できたのですが、なぜインターネットにアクセスできないのでしょうか?

A BBルータが正しく接続されていないと通信が行われないので、インターネットにはアクセスできません。以下を確認してください。

WANランプ

WANランプは点灯していますか?

BBルータとモデムを接続して正常に通信ができる状態になると、BBルータの「WAN」のランプが点灯します。

・点灯しない場合

「WAN」のランプが点灯しない場合は、モデムと正常に接続していないことを表しますので、その状態ではインターネットに接続することができません。

本製品はAuto MDI/MDI-Xに対応しているので、ケーブルの種類（ストレート/クロス）の違いは関係なくなります。

ポートにケーブルのコネクタが正しく挿さっているか再度確認してください。

それでも、点灯しない場合は使用しているLANケーブルを変えてみる必要があります。

接続設定フレッツ編

ここではNTT提供のフレッツ・ADSL、Bフレッツ等のようなフレッツ接続ツールを利用してインターネットにアクセスする場合の、インターネット接続に関する主な確認点をまとめました。

接続ツール等を使わない場合は137ページ「接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編」をご覧ください。

Q インターネットへの接続や切断はどうするの？

A BBルータが回線の状態を検知し、自動的に接続・切断を行います。

NTT「フレッツ」を利用されているほとんどの方が、NTTのフレッツ接続ツールを使ってインターネットに接続し、アクセスをやめる時は切断処理をしていたと思いますが、「BBルータを使う場

合はどうやって接続するの？」という疑問をもたれる方もいると思います。

BBルータ使用の場合、コンピュータがインターネットへ接続しようとする、そのコンピュータはBBルータに接続のための信号を送信します。

BBルータはその信号を受信すると、回線が切断状態の時には自動的に接続を開始します。そして、一定時間インターネットへの接続が発生しない場合、自動的に切断を行うようになっています。

つまり、ユーザーは接続や切断を意識することなく、インターネットへアクセスできるのです。

注意

上記の動作は出荷時の設定で使用した場合になります。設定内容によっては上記のような動作にならない場合もありますのでご注意ください。

Q 今までフレッツ接続ツールを使っていたのですが、BBルータを設置した場合にインターネット接続する時の確認点はなんですか？

A ユーザID、パスワード、PPPoE設定・接続、接続ツールなどです。

ユーザID、パスワード
ユーザIDとパスワードに間違いはないですか？

フレッツ接続の場合、接続のためにユーザID(ログインID)とパスワード(ログインパスワード)をBBルータに設定しますが、その入力を間違えると正常に接続できません。

入力ミスは意外と多く、再度入力し直すと接続できることが度々ありますので、入力した内容に間違いがないか、今一度確認してください。

「1(いち)」「1(エル)」、「0(ゼロ)」「0(オー)」の間違いなど。

フレッツの場合は「@」以降の入力が必須です

フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、ユーザID（ログインID）やパスワード（ログインパスワード）の入力が必須です。

特に注意すべき点として、ユーザIDの設定ではご利用になるプロバイダごとに、ユーザIDの後ろに「@****.ne.jp」というような設定入力が必要です。

プロバイダからの接続資料にはユーザIDの表記で「@」以降の部分が記載されていない場合もあります。

その場合はNTTからのフレッツ接続資料の中に、プロバイダ別のドメイン名リストがありますので、そちらで「@」以降の表記をご確認ください。

PPPoE設定

PPPoE接続の結果を確認してください。

BBルータにより確認方法が異なってくるため詳細は割愛しますが、PPPoEの接続設定の後には接続確認が大抵の場合行われません。

「接続診断」という機能を持ったBBルータの場合は、その機能を使って接続結果が良好かどうかを確認してください。

設定の最後で自動的に接続し、その結果を画面上に表示するタイプのBBルータの場合、接続に成功したというメッセージが表示されるか確認してください。

・接続テストの結果、接続できなかったという場合

「PADI TIMEOUT」や「サーバからの応答NG」等になる時は、PPPoE設定の「ユーザID」の設定が正しくても接続できないことがあります。

その場合、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態ですら30～60分ほどそのままにしておいてください。

30～60分ほど経過しましたらモデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

フレッツ接続ツール フレッツ接続ツールは使いません

BBルータを使用する場合は本編冒頭の「インターネットへの接続や切断はどうするの？」にも書きましたように、フレッツ接続ツールは使用しません。

もし現在、BBルータの設定後にフレッツ接続ツールを起動してインターネットへの接続をしている場合は、フレッツ接続ツールは使用せずにブラウザを起動して、インターネットに接続できるか確認してください。

正しく接続設定が行われていれば、フレッツ接続ツールを使用しないで接続できます。

- ・ PPPoE接続だけど接続ツールを使わない場合の設定は？

ADSL回線でPPPoE接続だが、モデムにコンピュータを接続してインターネットにアクセスする際、接続ツール等を使用しないという場合は、ご利用のモデムにBBルータ機能がついている可能性が考えられます。その場合は「PPPoE接続」ではありませんので、次項の「アッカやイー・アクセスをご利用の場合」を参考に設定を行ってください。

アッカやイー・アクセスをご利用の場合

アッカやイー・アクセスはADSL回線ですが、提供されているモデムにルータ機能がついています。複数のコンピュータで利用する場合は、ハブがあればアクセスできるため本来BBルータは必要ありません。

しかし、どうしてもBBルータを使用したいという場合は、BBルータのIPアドレスを変更することで利用可能になります。

BBルータのIPアドレスは本冊子の冒頭でも触れているように「192.168.1.1」になります。もし、ご利用のモデムも同じく「192.168.1.1」というIPアドレスを持っていて、しかも設定画面にアクセスした時にモデムの設定が行えるようだと、BBルータのWAN側とLAN側が同じようなアドレス(192.168.1.***)になってしまい、BBルータが混乱して正常な動作ができなくなります。

ハブではなくBBルータを使用したい場合はBBルータのLAN側のIPアドレスを、「192.168.2.**」等のようにWAN側のIPとは別のアドレスに変更すれば、接続できるようになります。

接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編

Q ケーブルTVインターネットやYahoo!BBを利用した場合に、インターネット接続する時の確認点はなんですか？

A IPアドレスの取得、ケーブルTVインターネットの場合はケーブルの接続方法にもご注意ください。

IPアドレスの取得

- ・ケーブルTVやYahoo!BBをご利用の場合

ケーブルTVやYahoo!BBを利用する場合は「通常接続（DHCP接続）」という方式で接続を行います。

各BBルータのマニュアルをご覧くださいと判るかと思いますが、この場合設定らしい設定はほとんど必要ありません。

インターネットに接続するには、BBルータがプロバイダからIPアドレスを取得しなければいけませんので、BBルータのWAN側ポートにIPアドレスが表示されているか確認してください。

確認方法はBBルータによって画面が異なりますので詳細は割愛しますが、「ステータス表示」や「アカウント管理」の画面で確認することができます。

ケーブルの接続

- ・WAN側ポートにIPアドレスが割り当てられない時

ケーブルTV等を利用したPPPoE以外のインターネット接続方法の場合、BBルータを接続する前まではコンピュータをモデムに接続して利用していることが多いと思います。

ケーブルをモデムから外してそのままBBルータに接続してしまうと、本来BBルータに割り当てられるはずのIPアドレスをコンピュータが持ったままになってしまい、BBルータがモデムからIPアドレスを正しく取得できないことがあります。

その場合はコンピュータを再度モデムに接続しなおしていただき、一度コンピュータを終了させる処理を行ってください。

モデム接続後にコンピュータを終了させれば、通常は取得したIPアドレスは開放されます。コンピュータの電源が切れたらモデムとBBルータを接続し、モデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

・それでも接続できない場合

モデムにコンピュータを接続した後、一旦終了させてからモデムとBBルータを接続し、電源を入れなおしてもインターネットに接続できない場合は、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態でも60分ほどそのままにしておいてください。

モデムを含めた全ての機器の電源を長時間切ることによって、プロバイダ側のサーバが記憶している情報が削除されて、初めて接続した時のような状態で接続することができます。60分ほど経過しましたらモデム BBルータ コンピュータの順番に電源を入れてください。

■共通項目 最終確認編

どの接続方法にも共通する、最後に確認すべき点です。

Q 事前確認、接続設定と確認して問題がなかったのですが、それでもアクセスできません。ほかに確認点はありますか？

A コンピュータのIPアドレスが自動取得である事と、DNSサーバアドレスの設定を再確認してください。

自動取得

コンピュータのIPアドレスは自動取得になっていますか？

コンピュータのIPアドレスを手動で設定する場合、正しく設定されていないと設定画面にはアクセスできてもインターネットにアクセスできないことがあります。

手動設定の場合の注意点は「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？」を参照していただき、コンピュータのIPアドレスが正しく自動取得になっているか、マニュアルを再度確認してください。

DNSサーバアドレス

IPアドレスでホームページにアクセスしてみてください。

ブラウザのアドレスに「http://210.197.75.205」と入力して<Enter>を押していただき、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。

「http://210.197.75.205」だとアクセスできて「http://www.planex.co.jp」だとアクセスできない場合は、DNSサーバアドレスが正しく設定できていない可能性が考えられます。「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？」を参考に設定を行ってください。

4 その他 よくあるお問い合わせについて

ここでは、多数寄せられる質問について、いくつかまとめてみました。

Q IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？

A IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバアドレスが正しく設定されているか再確認してください。

IP アドレスの基本的なルールは冒頭の「IPアドレスってなんでですか？」の中で触れていますが、設定画面にアクセスする場合に必要な最低限の説明だけなので、インターネットに接続する場合の設定については不十分になっています。

手動でIPアドレスを設定する場合の注意点は以下のようになります。

IPアドレス：

IPアドレスの設定については123ページ「IPアドレスってなんですか？」をご覧ください。

サブネットマスク：

通常は「255.255.255.0」と指定してください。

デフォルトゲートウェイ：

(MacOSでは「ルータアドレス」と言います)

BBルータのIPアドレスが入ります。出荷時の設定は「192.168.1.1」になります。

ここが正しく設定されていないとインターネットには接続できません。

DNSサーバアドレス：

(MacOSでは「ネームサーバアドレス」と言います)

ご利用になっているプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。

BBルータによっては「デフォルトゲートウェイ」と同じIPアドレスで問題ない場合もありますが、判らない場合はプロバイダ指定のDNSサーバアドレスを設定するのが確実です。

ここが正しく設定されていないと「www.planex.co.jp」という名前(ドメイン名)でホームページにアクセスできなくなります。

Q BBルータに接続しているコンピュータ同士の通信ができません。

A pingを打って通信確認ができれば、BBルータの問題ではありません。OS側の設定の問題だと思われます。

インターネットへの接続は問題ないのに、コンピュータ同士のファイル共有等ができないという問い合わせも良く寄せられます。コンピュータ同士のLAN接続について、基本的にBBルータは関係しておりません。

BBルータの通信確認

コンピュータ同士が本当にアクセスできていないのか確認する方法として、125ページからの「設定画面にアクセスできないのですが？」の中に、取得しているIPアドレスを確認する方法と、指定のIPアドレスにpingを打つ方法を紹介していますので、そちらを参考にそれぞれのコンピュータが取得しているIPアドレスを確認して、相手のコンピュータに対してpingを打ってみてください。「Reply from・・・」が帰ってくればコンピュータ同士の接続は問題なくできていることになりますので、ファイル共有等ができないのはBBルータの問題ではなくOS側の設定の問題ということになります。

OS側の要因

pingの結果が「Request timed out」だったり、pingが通っても接続できない場合に考えられる一つの要因として、ファイアウォールソフトの存在が挙げられます。

ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティのソフトには、簡易ファイアウォール機能を有している物があります。使用しているコンピュータにそれらのソフトをインストールしている場合、ファイアウォールが有効になっていると、たとえ自宅の中の同じネットワーク上のコンピュータであっても、ファイア

ウォールから見ると第三者がそのコンピュータにアクセスしているように映るため、アクセスされないように遮断してしまいます。該当するようなソフトを利用されている場合は、それらのソフトを停止させた状態で再度pingコマンドを打ち、通信状態を確認してみてください。

停止させるとpingが通るような場合は、それらソフトのファイアウォールに他のコンピュータのIPアドレスを設定し、信頼するコンピュータとして認識させることで、ファイアウォールを有効にしながらファイル共有ができるようになります。

Q コンピュータの電源をOFFにしたのに、BBルータのLANのランプがついたままですが故障でしょうか？

A 故障ではありません。「Wake On Lan」機能によるものです。

最近のLANアダプタには「Wake On Lan (以下WOL)」という、他のコンピュータから電源をON/OFF操作するための機能がついている物が多くなっています。

「WOL」に対応したLANアダプタでその機能が有効になっている場合、電源ONの信号を受信できるように待機状態になっている必要があるため、コンピュータ自体の電源はOFFになっていても、LANアダプタはBBルータのハブとLINKした（LANのランプが点灯した）状態になります。つまりBBルータ側ではどうすることもできません。

消えるようにするには「WOL」の機能をOFFにする必要がありますので、ご使用のLANアダプタのメーカーか、あるいは標準でコンピュータに搭載されているLANアダプタの場合はコンピュータメーカーに機能を無効にする手順をお問い合わせください。

付録B.仕様

型番	BRL-04G	
準拠する規格	LAN側	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX 1000BASE-T、IEEE802.3x
	WAN側	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX
伝送速度	LAN側	10/100/1000Mbps
	WAN側	10/100Mbps
ポート	LAN側	10BASE-T/100BASE-TX、1000BASE-T、 RJ-45 x4ポート(AutoMDI/MDI-X)
	WAN側	10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 x1ポート(AutoMDI/MDI-X)
LED	POWER、STATUS、WAN、LAN	
動作電圧	DC 5.0V	
外形寸法	220(W)×37(H)×150(D)mm	
重量	905g	
環境	動作温度：0℃～40℃ 動作湿度：35%～85%(結露しないこと)	
EMI	VCCI ClassB、FCC ClassB、CE	

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>

弊社へのお問い合わせ

弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPlanexダイレクトまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

Planexダイレクト
<http://direct.planex.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

ご質問/お見積もりフォーム
<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

お問い合わせフォーム
<http://www.planex.co.jp/support/techform/>
受付：24時間

電話
フリーダイヤル：0120-415977
受付：月～金曜日、10～12時、13～17時
* 祝祭日および弊社指定の休業日を除く

FAX
ファクス番号：03-5614-1018
受付：24時間

お問い合わせ前のお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様の協力をお願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名(Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境(回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容(現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

プラネックスコミュニケーションズ
<http://www.planex.co.jp/>

質問表

技術的なご質問は、この2ページをプリントアウトして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 :

会社名			
部署名			
名前			
電話		FAX	
E-MAIL			

製品名 Product name	4ポートギガビットブロードバンドルータ
型番 Product No.	BRL-04G
製造番号 Serial No.	

ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

